



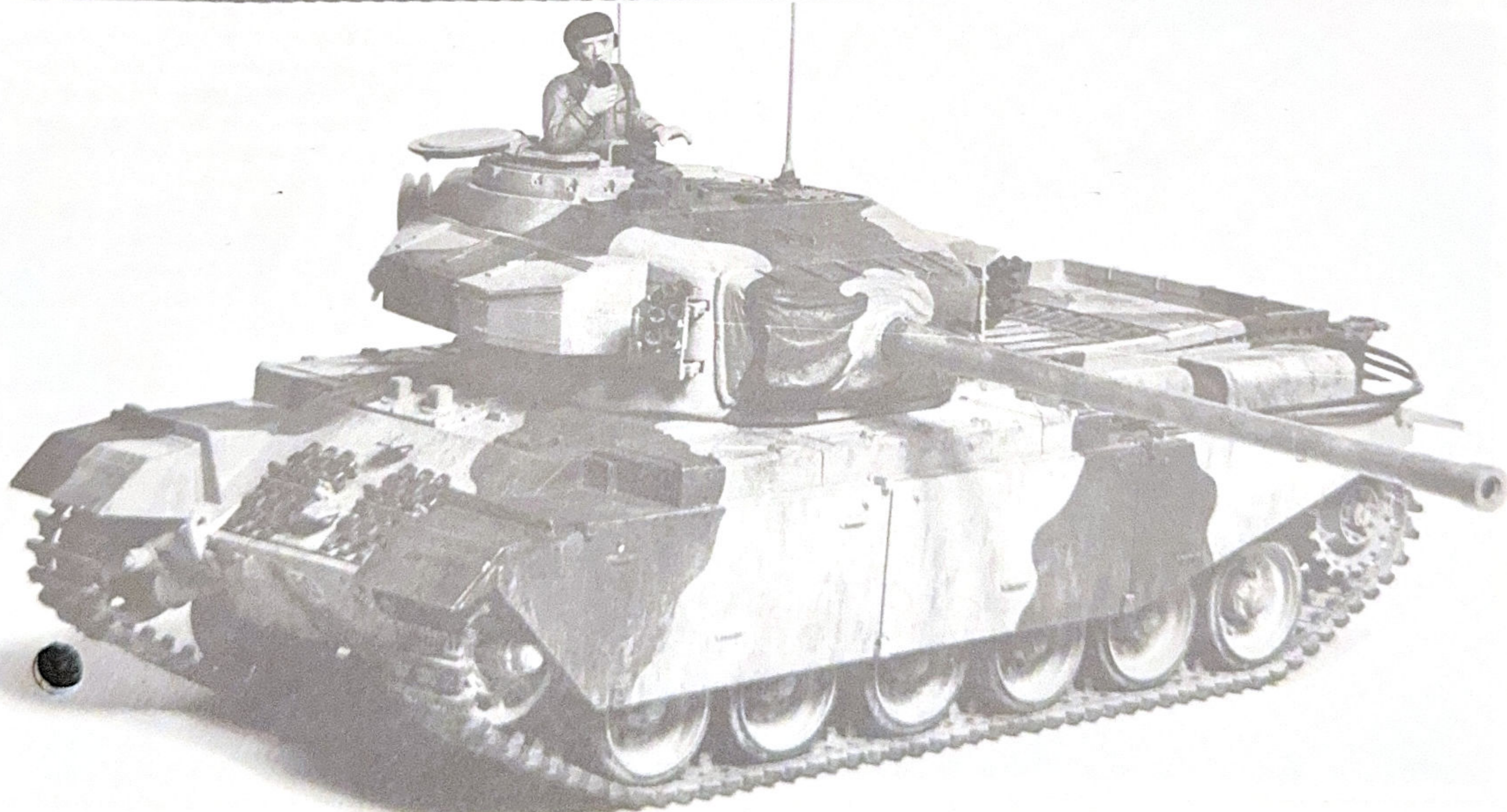
# CENTURION MK III

1/35 IDENTICAL SCALE SERIES NO.30

KIT NO.MT130 イギリス陸軍センチュリオンマークⅢ (シングル)



KIT NO. MT130

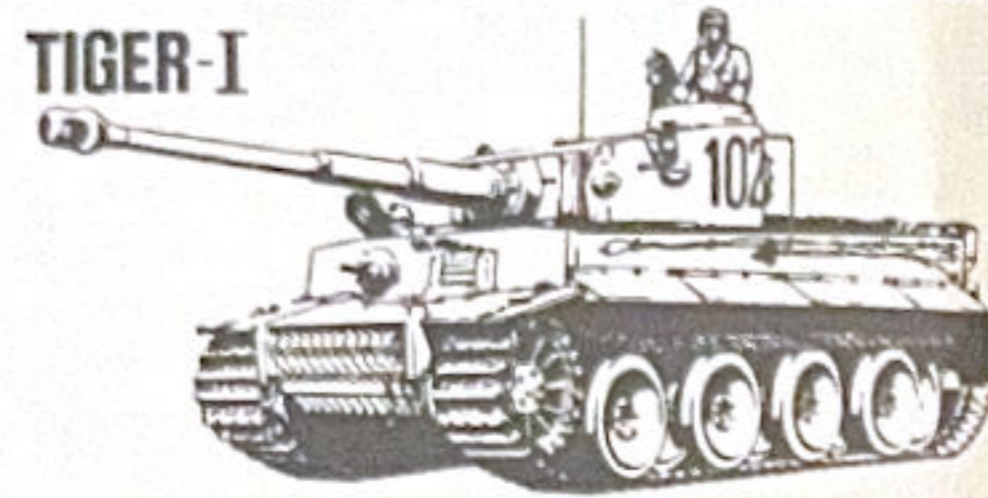


# CENTURION MKIII

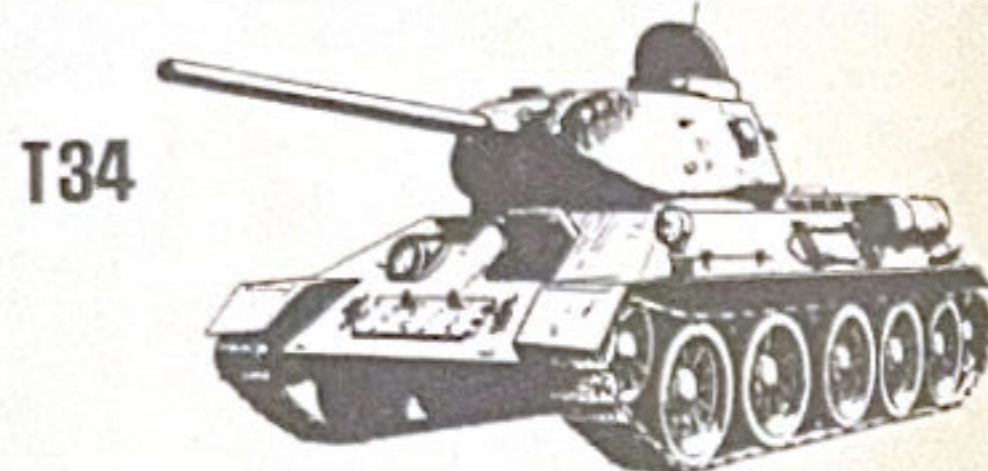
1945年5月、6台のセンチュリオンのプロトタイプがドイツに上陸した。しかしドイツ戦車を相手に砲火を交えるには、もはや遅すぎたのである。すでにヒトラーは4月30日に自殺し、5月7日にドイツ第3帝国は無条件降服を受け入れ、完全に消滅したのである。このためセンチュリオンは1度も敵戦車と戦うことなく、ヨーロッパにおける戦争の終結を迎えた。やがて3ヶ月後の8月15日、日本も無条件降服を受け入れ、第2次世界大戦は終わった。しかし平和は長続きしなかった。大戦後から5年、アメリカ、ソ連両大国の冷戦による東西対立の中で1950年6月に朝鮮半島で再び戦争の火の手があがったのである。マーク3となったセンチュリオンは、この朝鮮戦争で国連軍の一員となったイギリス軍のもとで活躍し、優秀さを世界に認めさせた。その活躍は数多くのエピソードを残している。1951年1月3日、センチュリオンマーク3は第8英国アイルランド連隊に配備され、初めて戦闘に参加した。そして翌年4月25日、陸軍少佐ヘンリー・フェスが指揮したC中隊のセンチュリオンマーク3は、名将オーマッドのもとで他の隊の戦車と共に中共軍の大軍を前にノーザンバーランド連隊、ウルスター連隊の救援に活躍し、さらに同じ日に編成を解かれた後もC中隊単独でベルギー大隊の撤退を援助し、脱落者をほとんど出さずに成功させたのである。このC中隊の活躍をErick Linklaterは彼の著書「Our men in Korea」で次のように言っ

ている。「偉大なこの戦車隊は、素晴らしい技術と非常な勇気をもって撤退の成功のために戦った。彼らの力強い援助と自己犠牲は多くの傷つき、飢えた兵士達を救った」。1943年7月、英国国防省はA41と名づけられた重巡航戦車の開発を戦車設計委員会に依頼した。開発に課せられた条件は次のようなものだった。すなわちこの頃戦場に登場しはじめたドイツのタイガーI型の88mm砲に勝る装甲を持っていること。また地雷に対しても十分な抵抗力を持っていること。スピードはそれほど要求されなかったが荒地での機動性が重視され、高速でバックできることも要求された。つまりドイツ戦車と同等以上の条件で戦える戦車が要求されたのである。1944年5月、AEL社でA41のモックアップが完成した。その主な特徴は17ポンド多用途砲を新たに装備したことである。前面装甲にはゆるやかなカーブがつけられ、避弾能力が高められた。車体下部はポート型となり、地雷に対する抵抗力を増している。サスペンションはこれまでの英国戦車に使われていたクリスティ型に代って改良型ホーストマンサスペンションが新たに採用された。戦闘時の重量は約42トン。これを委員会にかけた結果20台の試作車が発注された。この20台は5台づつ4つのグループに分けることができ、わずかなではあるが火器の装備などがちがっている。そしてこの20台のうち6台が、先に述べたようにドイツの戦場へ送られたのである。

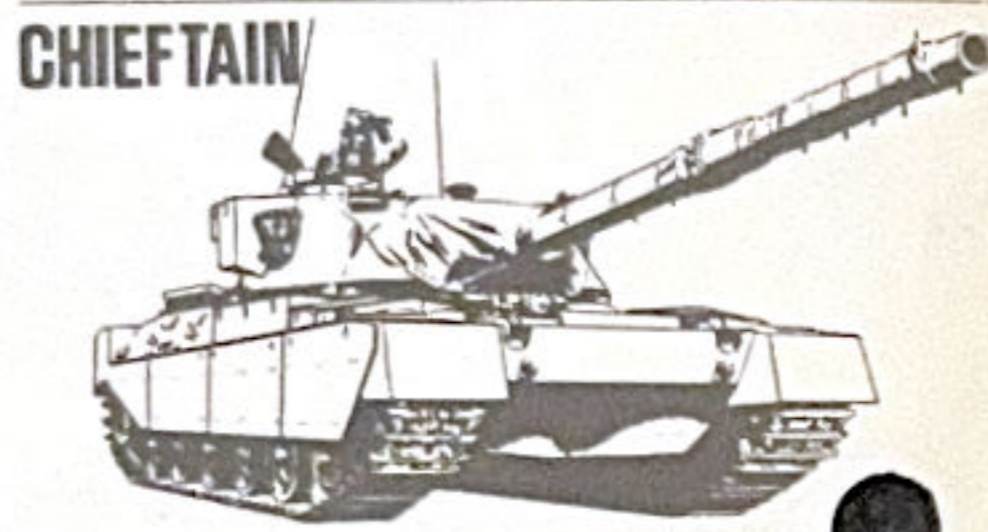
TIGER-I



T34



CHIEFTAIN

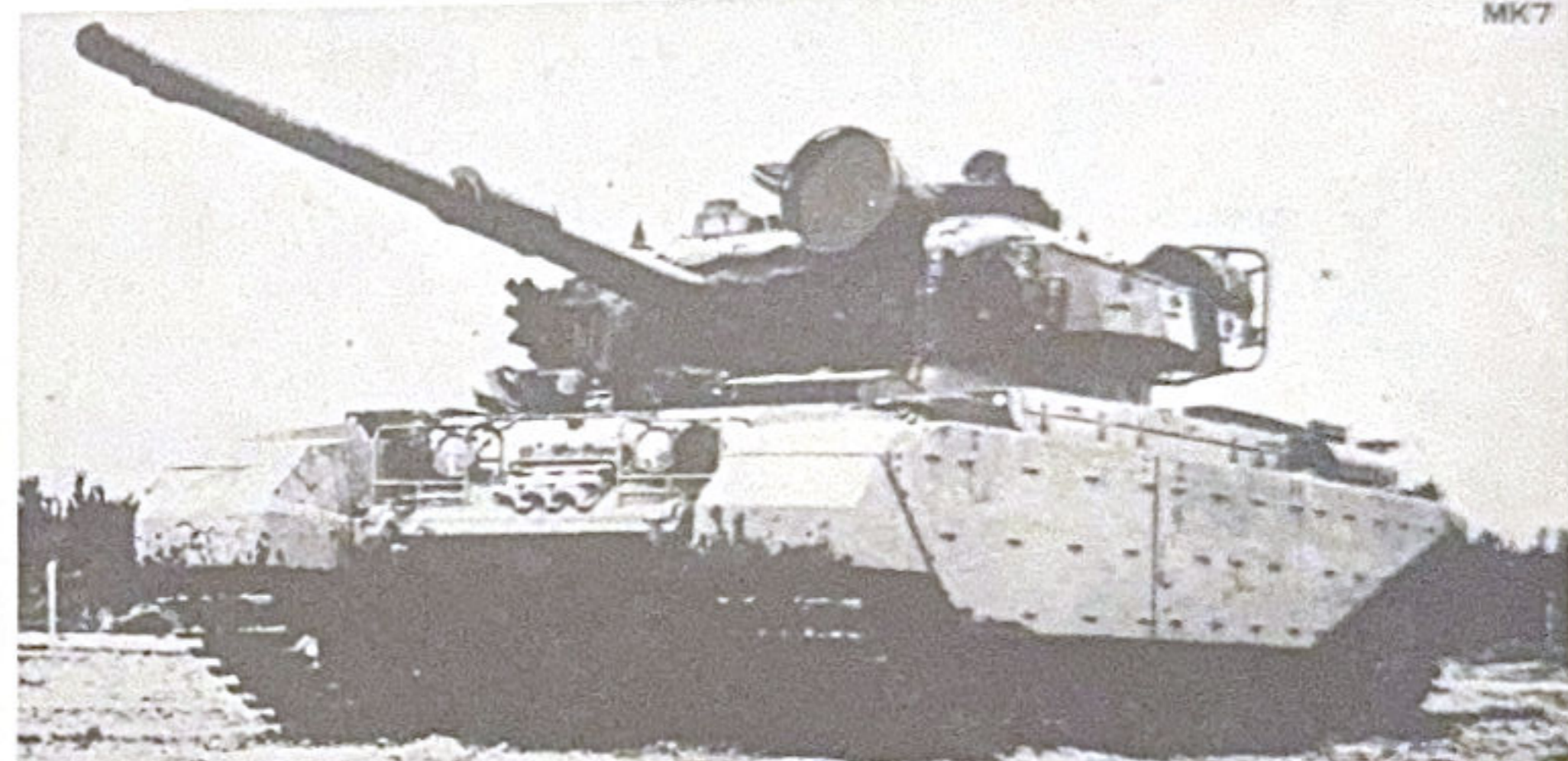
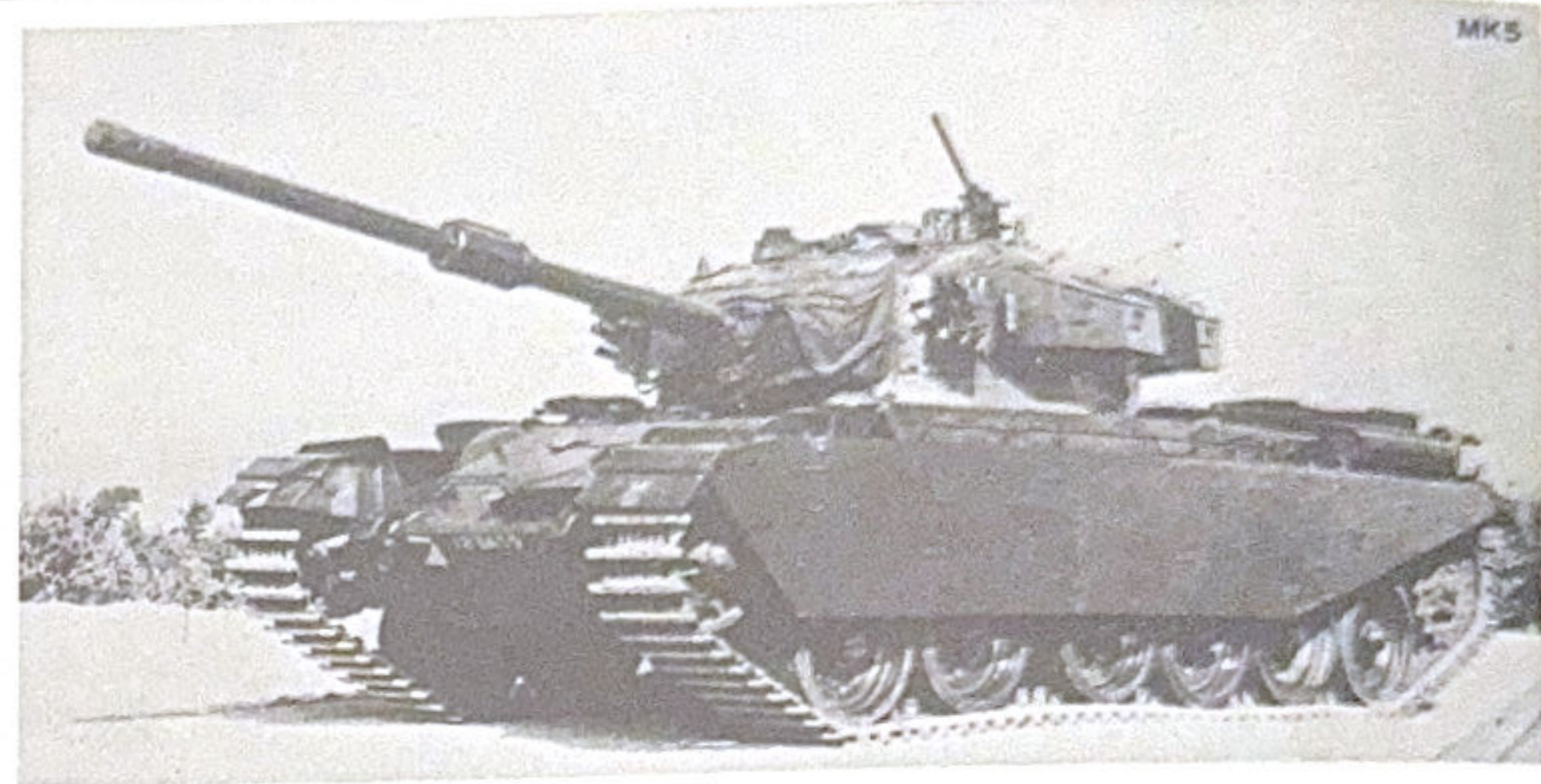


1946年1月初め、新しくA41Aが発表された。A41の車体装甲をさらに増強し、砲塔は一体構造となった。コマンダーハッチは全周が見られるように改良され、ペリスコープが採用された。また副武装としては主砲と同軸にBesa 7.92mm機銃が装備された。さらに主砲の射撃精度を向上させるために上下方向、水平方向に安定装置がつけられた。このA41Aがセンチュリオンマーク2と呼ばれ、先のA41がマーク1と呼ばれることになり、それぞれ100台づつが量産された。このセンチュリオンマーク2の後期型がさらに火力を増強され、センチュリオンマーク3となるのである。

1948年、センチュリオンマーク3が登場した。主砲は17ポンド砲に代って実用化されたばかりの20ポンド砲—83.4mm砲が搭載された。他に副武装として7.92mm Besa 機銃が主砲と同軸にマウントされる。エンジンはセンチュリオンマーク1及び2と同じロールスロイス・メトロB型、水冷V型12気筒OHV 27,000ccでリアに搭載される。バンクの角度は60度、2基のツインチョークアップドラフトキャブレターを持ち、オイルはドライサンプ方式で供給される。プラグは1気筒当りに2個あり、出力は650b.h.p./2550rpm、燃料にはガソリンを使う。このメトロB型エンジンは、スピットファイアなどに搭載された有名なロールスロイス・マーリン航空機用エンジンから発展したもので、初期のものはコマンドクロムウェル戦車に装備され良好な成績を残していた。クラッチはボグ&ベグ製の乾式多板、トランスミッションは前進5

段、後退4段である。ブレーキはガーリングベンデックス製のドラムでファイナルドライブシャフトに付けられる。最高速度は約35km/hでいささか低スピードであるがこれは荒地での機動力を重視し、最高速度を抑えたためである。車体全長はマーク2よりわずかに短かく約7.55m、車体内のレイアウトは前部が操縦室と弾薬庫、中央部が戦闘室、後部は2つに分かれてエンジンとトランスミッションがおかれる。戦車長は砲塔内の右後部に位置し、その前下部に砲手が、20ポンド砲をはきんで砲手の左側に無線手が位置する。サスペンションはロードホール2輪を一組として3つの水平スプリングで吊る改良型ホーストマンサスペンション。これによく似たものがコンカラーやチャーフテンにも使われている。重量はプロトタイプ42トンからマーク1の47トン、マーク3では50トンに増加している。もちろんこれは火力、装甲の増強などのためであるが、そのうちわけは大体のところ44%が装甲、11%が火器及び弾薬、5%がエンジン関係、33%がトランスミッション、走行装置関係、残り10%が乗員及びその荷物などあり、この10%が戦車の価値を左右するところである。

ところで生産されるセンチュリオンの10%に95mm曲射砲を搭載する計画があった。この計画は実行直前の段階まで来ていたが、1949年になって正式に中止となった。もしこの型が生産されたならば、センチュリオンマーク4となるはずであった。1950年から51年にかけて多くのマーク2がマーク3の仕様に変更された。この頃になってセンチュリオンの航続距離が短かすぎ、核兵器時代の戦術に不利であるとの不満が軍から出はじめた。この不満を解消するために燃料タンクトレーラを牽引することになり、航続距離は大幅に伸びた。1952年末、ピッカースアームストロング社は、センチュリオンマーク5を発表した。マーク5は基本的にはマーク3と同じであるが、Besa機銃はNATO（北大西洋条約機構）軍制式機銃のブローニング7.62mmに変えられた。他には砲塔上部が洗練されたこと、リアの脱出口の移動、及び足廻りの改良など細部が改良、変更されたにとどまる。そしてマーク3も順次このマーク5の仕様に変更された。センチュリオンはこの後マーク13まで発展している。大きく変わったのはマーク6からで、この型から20ポンド砲に代って105mm砲を搭載するようになった。ただマーク7、及びマーク8は20ポンド砲のまま生産されたが、後に105mm砲を搭載するよう改良された。マーク7ではリアのトランスミッションコンパートメントに燃料タンクが増設されて航続距離が伸びている。マーク8ではコマンダーハッチのドアが両開きに変更された。マーク6、9及び10に赤外線投射装置がつけられ、この型はマ

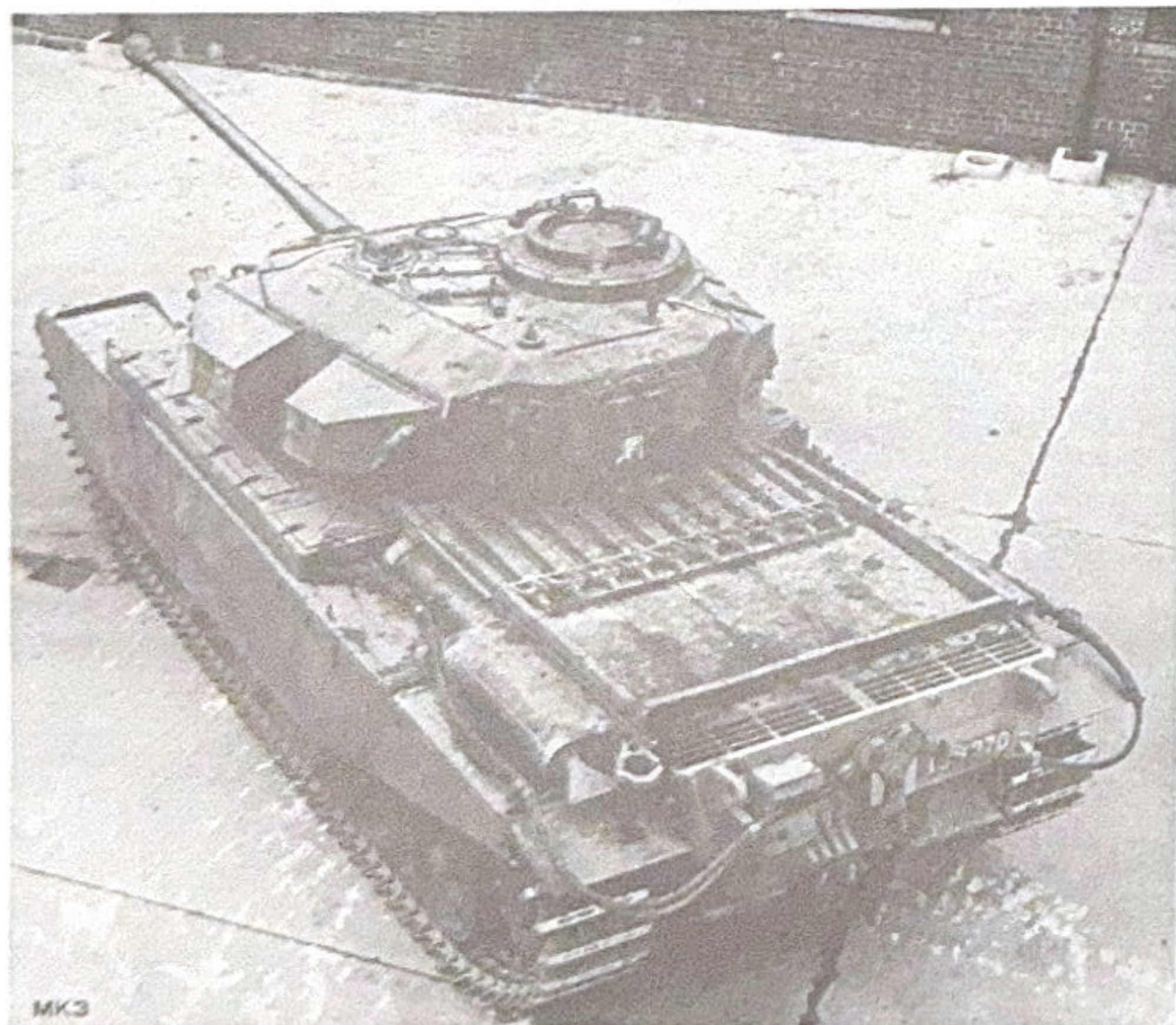


ク6/1、9/1、10/1とそれぞれ呼ばれる。さらに主砲と同軸に距離測定用に使う機銃を装備、これらを6/2、9/2、10/2と呼ぶ。マーク11、12、13、は最初から赤外線を使用した夜間戦闘装置、距離測定用の機銃を備えている。すなわちマーク6、9及び10の改良型に準じたものである。そのほか対戦車自走砲や架橋戦車などセンチュリオンから発展した特殊型が8種類ある。朝鮮戦争が休戦になった後、1956年にスエズ動乱が起き、センチュリオンは当時の英国第6戦車師団によって戦闘に参加している。また1965年のインドパキスタン紛争ではインド第1機甲師団によって使われたセンチュリオンは、パキスタン陸軍が使用したアメリカ製M47、M48バットンよりも優秀な性能を持つことを示した。1967年のアラブ動乱ではイスラエル軍のセンチュリオンはソビエト戦車を使用したアラブ連合軍を完全に撃破した。1965年、イギリスではチャーフテンがセンチュリオンに代って主力戦車となった。プロトタイプの完成からチャーフテンに主力戦車の座をゆずるまでの20数年のうちにセンチュリオンの火力は2倍近くになり、より多くの弾薬と武装を持ち、その行動半径は2倍以上に拡大された。これはオリジナル設計の優秀さと開発チーム

の不断の努力を無言のうちに示していると言えるだろう。センチュリオンをかって使用した、また現役に使用している国々は次の通りである。オーストラリア、カナダ、デンマーク、エジプト、インド、イラク、イスラエル、オランダ、南アフリカ、スウェーデン、スイス、イギリス

### 〈センチュリオンMKIII主要データ〉

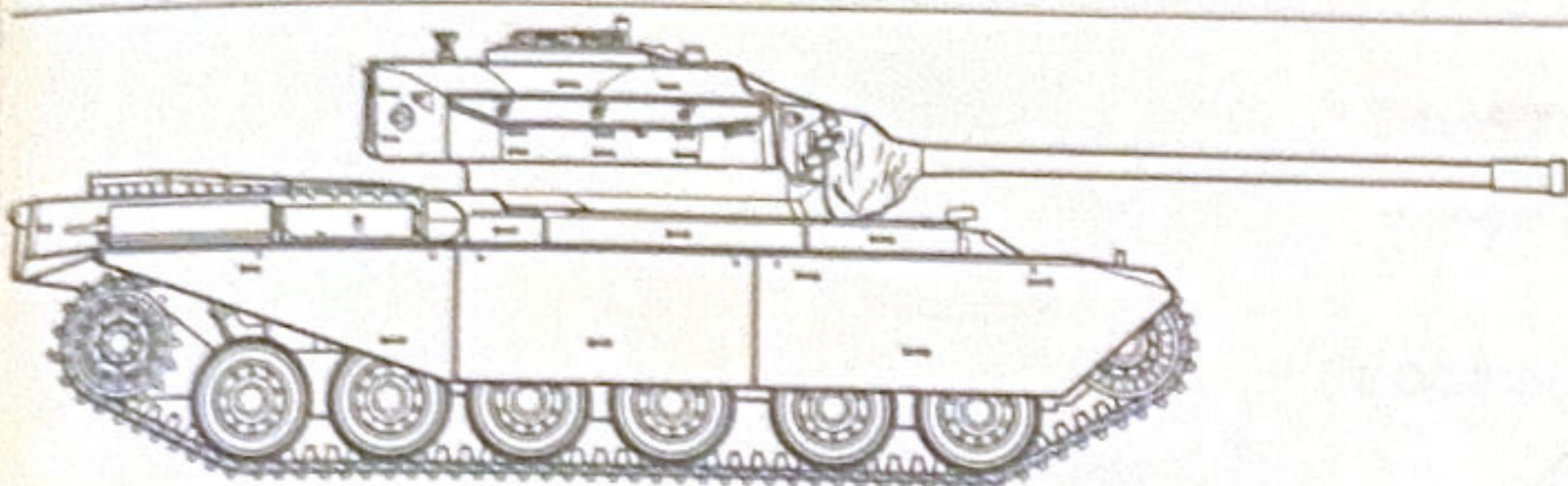
全長：9.73m（砲身長を含める）  
 車体全長：7.55m  
 全幅：3.38m  
 全高：2.94m  
 重量：50トン  
 武装：マーク1・20ポンド砲：1  
           Besa 7.62mm機銃：1  
           スモークディスチャージャー2×6  
 エンジン：ロールスロイス・メトロB型  
           水冷V型12気筒 OHV 27,000cc  
 最高出力：650bhp/2550rpm  
 最高速度：35km/h  
 登坂能力：35度  
 航続距離：110km  
 携行砲弾数：65発  
 携行機銃弾数：3600発  
 キャタピラ：マグネシウム鋳造 幅61cm  
 乗員4名



# CENTURION MKIII

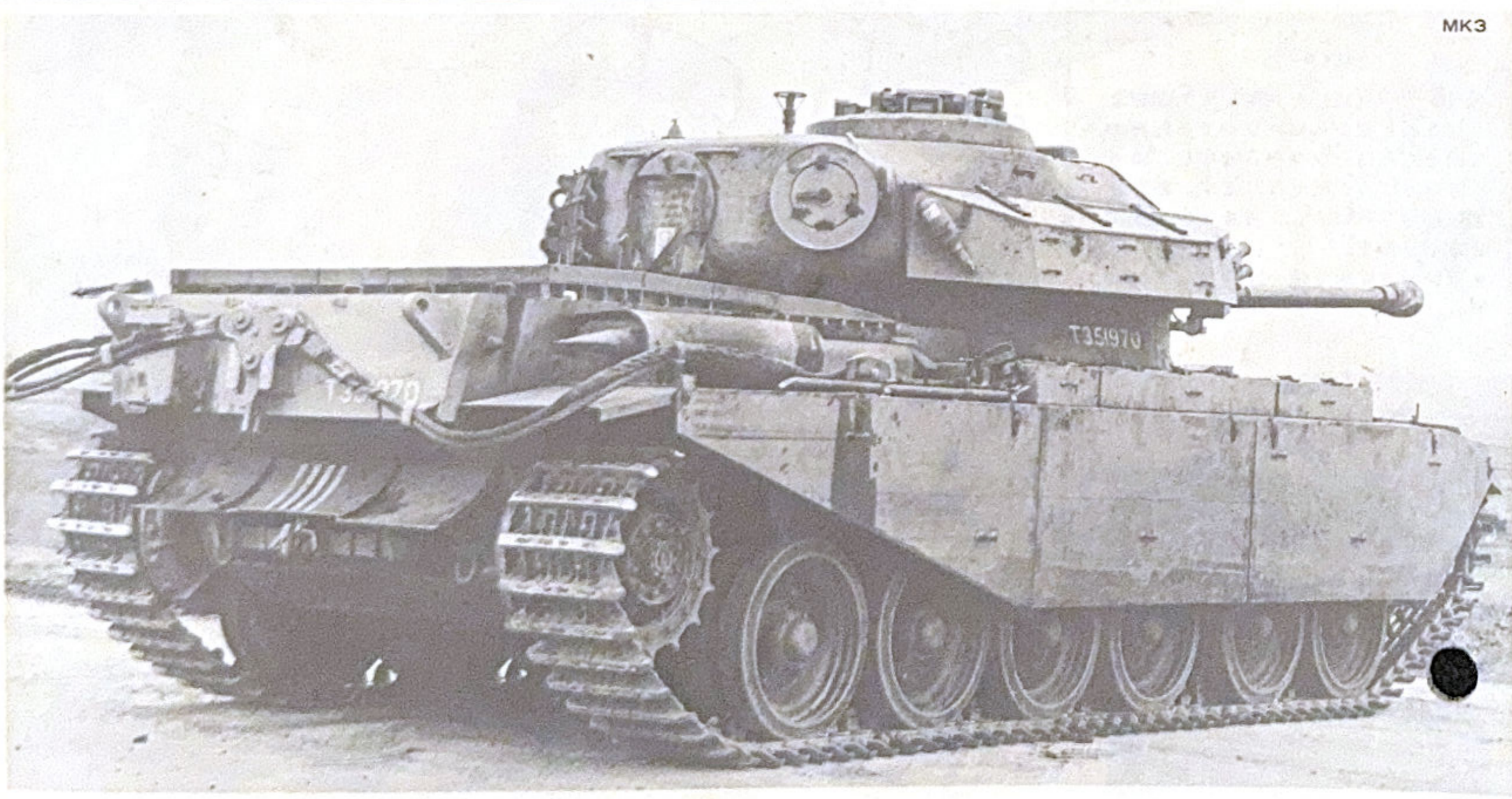
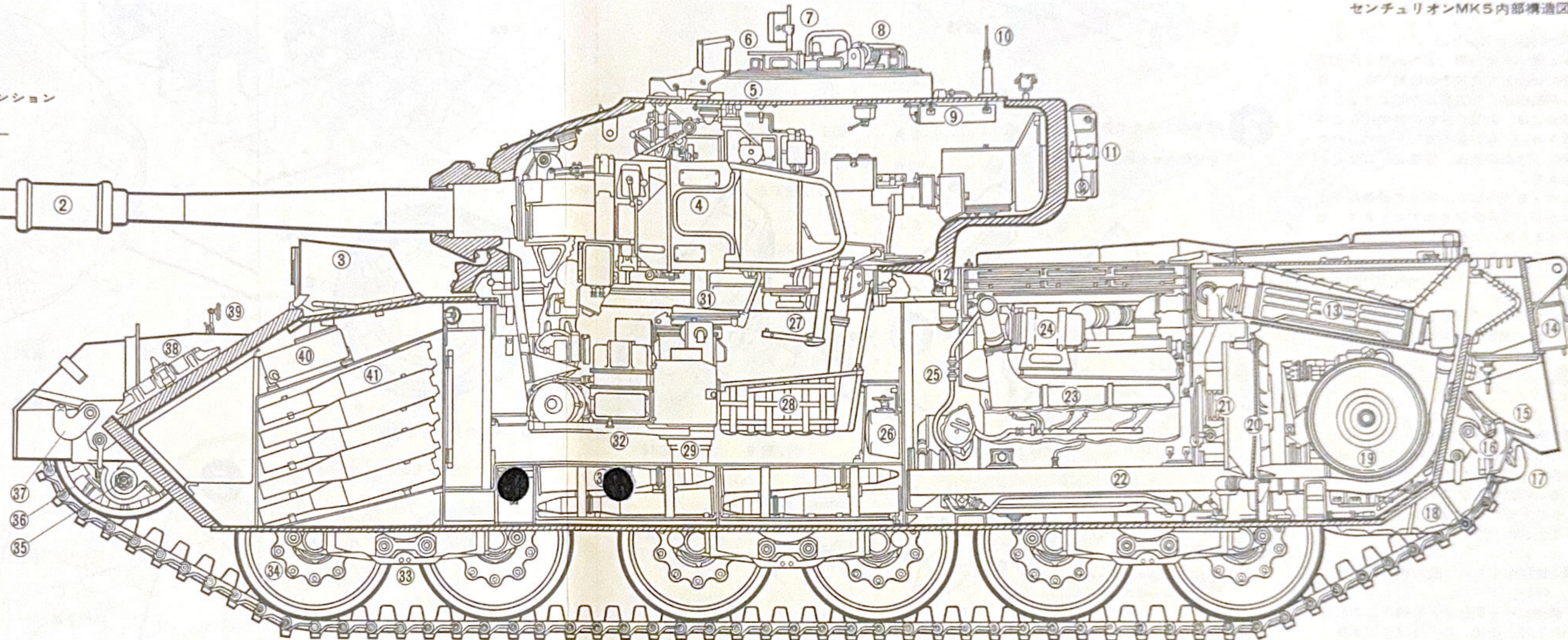
協力  
ボービントン博物館  
Richard Kohnstam Ltd.

センチュリオンMK5内部構造図



- ① 20ポンド(83.4mm)砲
- ② 排煙器
- ③ ドライバーズカバー
- ④ 装填部
- ⑤ コマンダースキューボラ
- ⑥ ハリスコープ
- ⑦ 機銃架
- ⑧ コマンダースハッチ
- ⑨ 砲塔旋回軸
- ⑩ 20ポンド砲弾丸
- ⑪ ガンナーズシート
- ⑫ 砲塔床板
- ⑬ 改良型ホーストマンサスペンション
- ⑭ ロードホイール
- ⑮ キャタピラーアドジャスター
- ⑯ アイドラーホイール

- ⑰ 地図入れ
- ⑱ 通信用アンテナ
- ⑲ 水タンク(約15ℓ入り)
- ⑳ 燃料注入口
- ㉑ ラジエター
- ㉒ 電話ボックス
- ㉓ エアーデフレクター
- ㉔ フック
- ㉕ 牽引フック
- ㉖ ファイナルドライブ
- ㉗ メインブレイキ(ガーリングベンデックス製)
- ㉘ 冷却ファン
- ㉙ クラッチ(ボグ&ベック製)
- ㉚ エンジンマウント
- ㉛ エキゾーストパイプ
- ㉜ オイルフィルター
- ㉝ 燃料タンク
- ㉞ 燃料フィルター
- ㉟ 後期型コマンダースシート
- ㊱ 薬きょう排出ケース
- ㊲ フック
- ㊳ 補助キャタピラ
- ㊴ バックミラー
- ㊵ 飲料水タンク
- ㊶ 弾倉



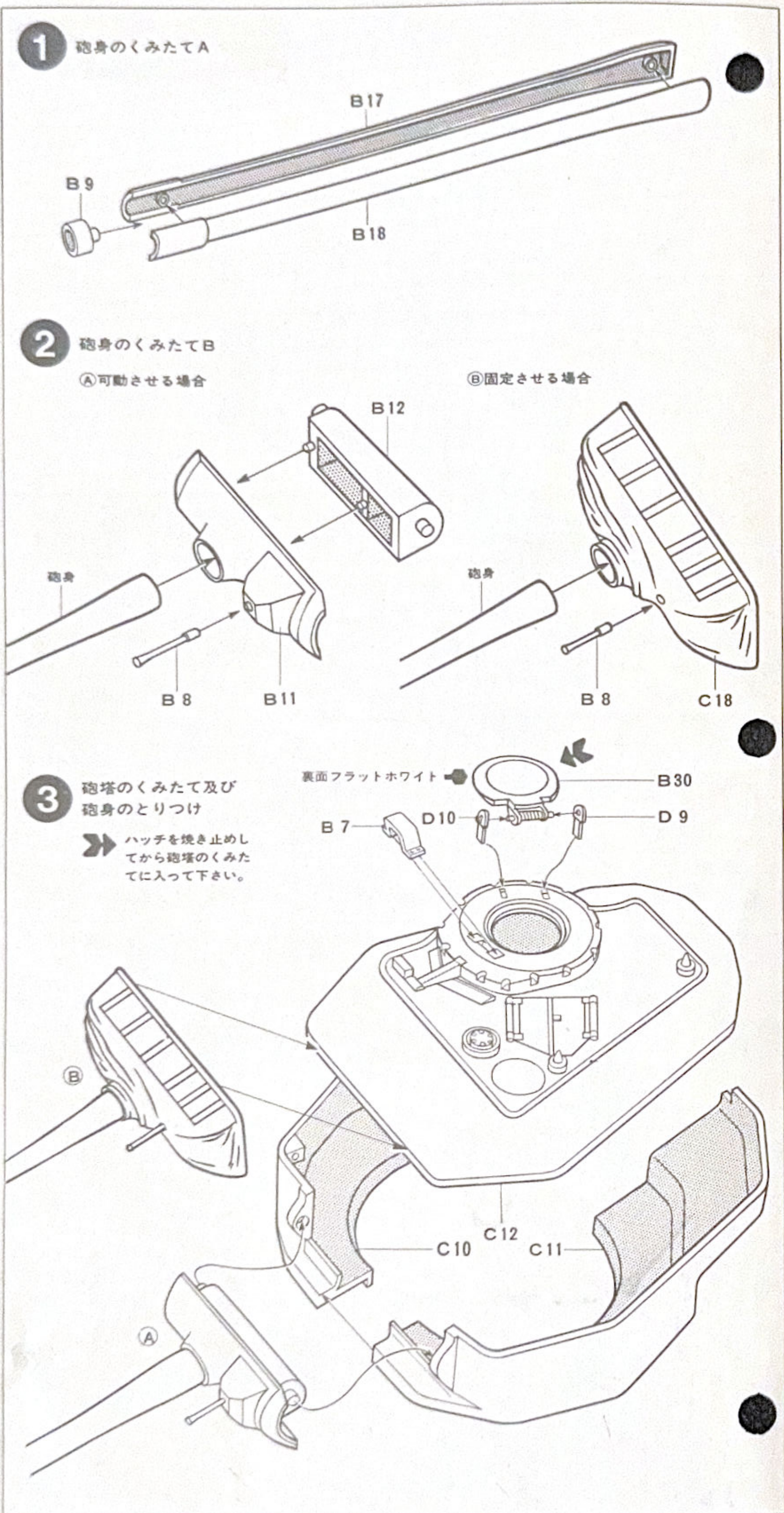
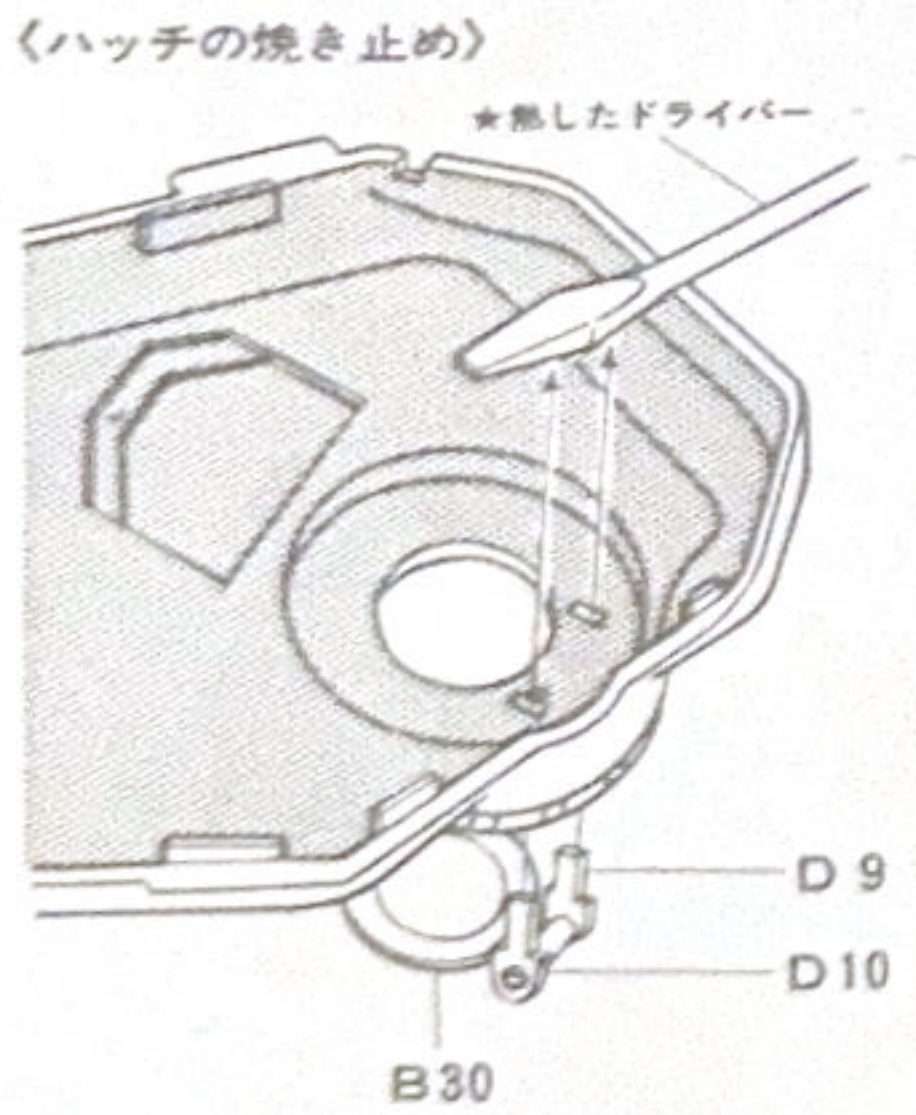
MK3



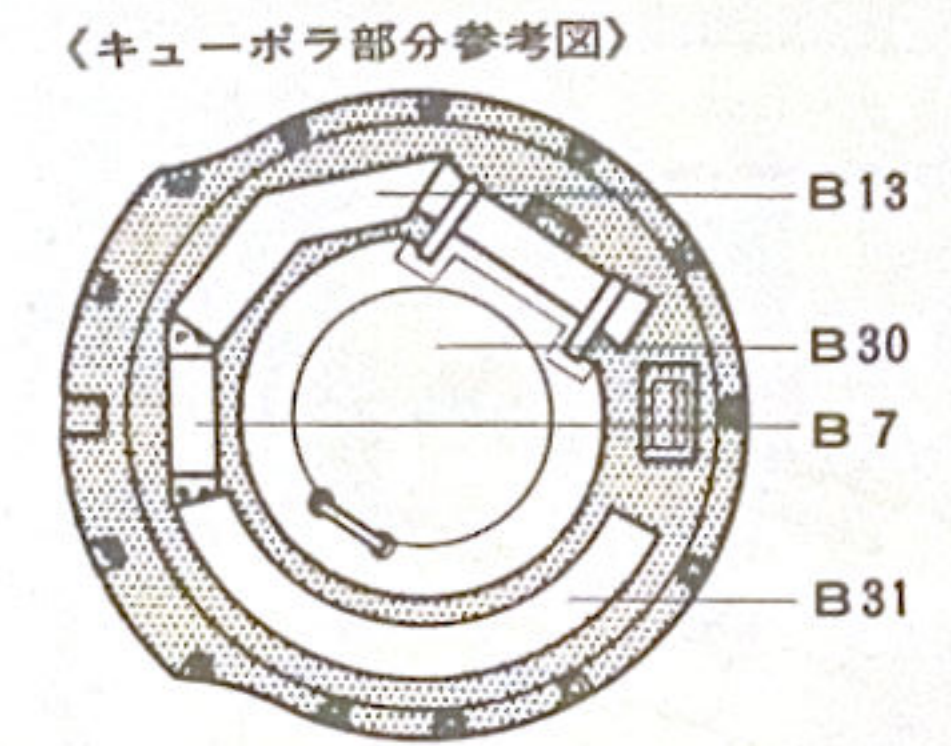
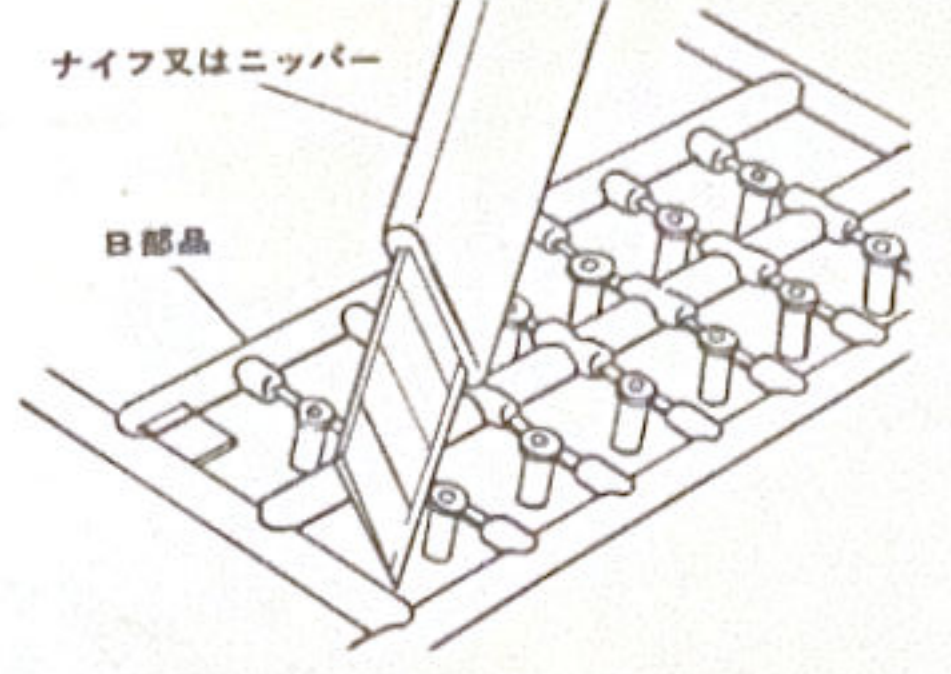


《作る前にお読み下さい》  
 ★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。  
 ★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。  
 ★キットを組立てる前に必ず説明文を読んで下さい。  
 ➔ このマークが指示してある部分は特に注意して組立ましょう。  
 ● これは塗装色指示のマークです。

② 《砲身のくみ込め》  
 ★このキットは《A》砲身を可動させる場合 《B》砲身を固定させる場合の2通りの組立てができます。最初にどちらにするかを決めてから組立てに入して下さい。  
 ③ 《砲塔のくみ込め及び砲身のとりつけ》  
 ★最初にハッチヒンジを焼き止めてからC12、C10、C11を組立てます。  
 ★《A》可動させる場合のときはB12をC10、C11の穴にはめ込んでからC10、C11を接着して下さい。

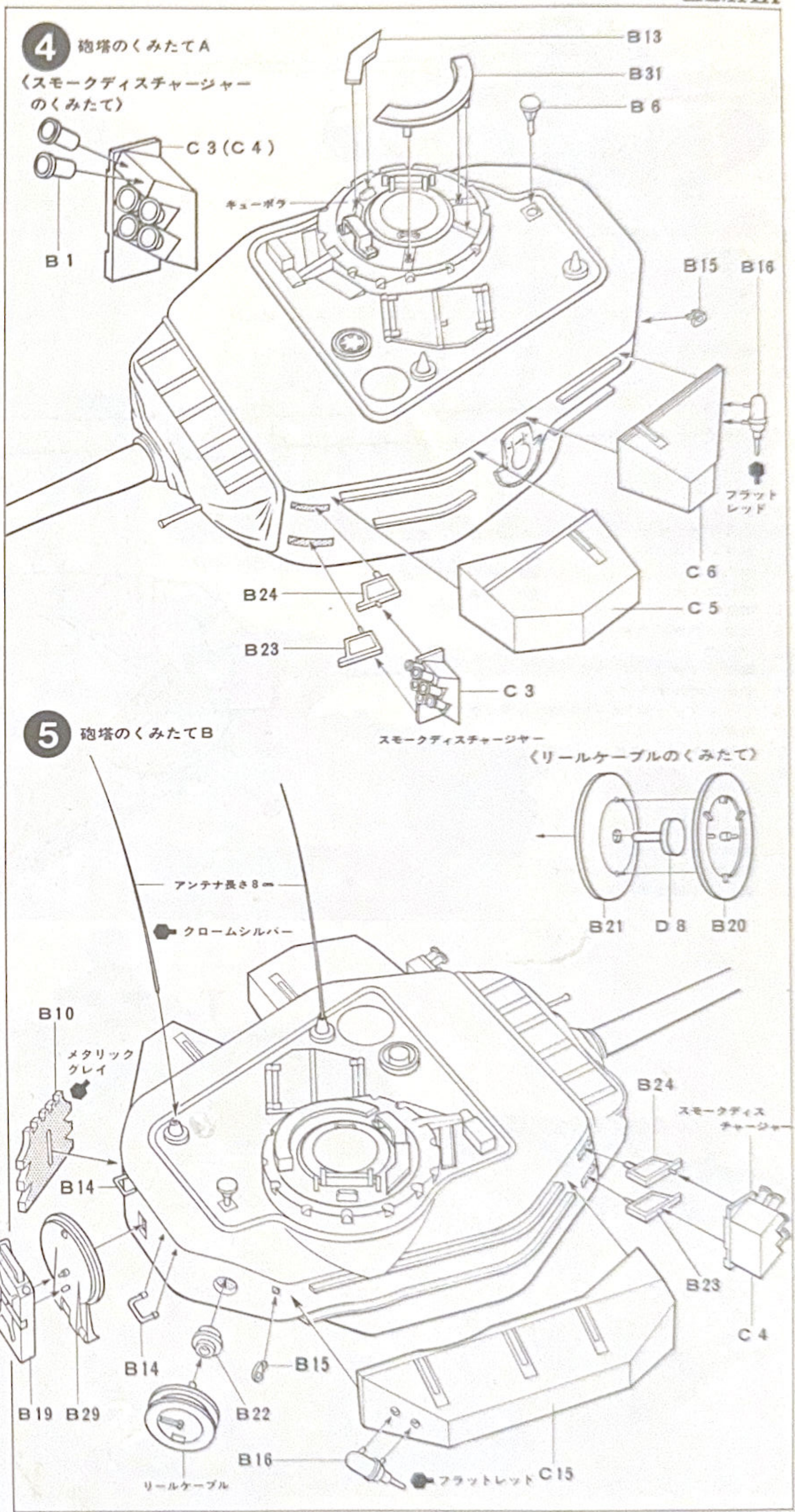
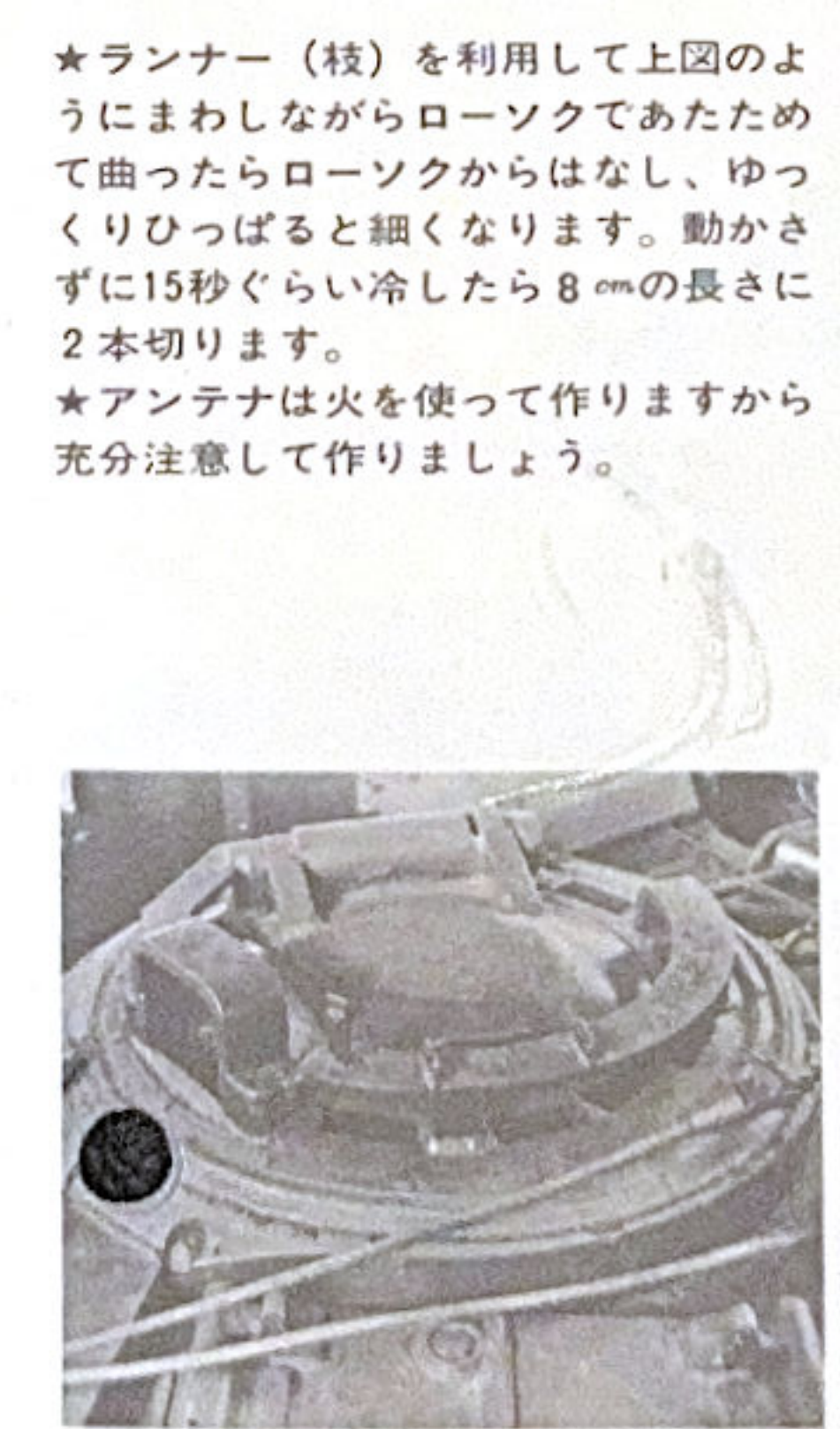


① 《砲塔のくみ込めA》  
 《スモークディスチャージャーの組立》  
 ★スモークディスチャージャー部品B1は下図の様にランナーからナイフ、ニッパー等を使っていねいに切り取り、やすりできれいに仕上げをけずって下さい。



⑤ 《砲塔のくみ込めB》  
 《アンテナの作り方》

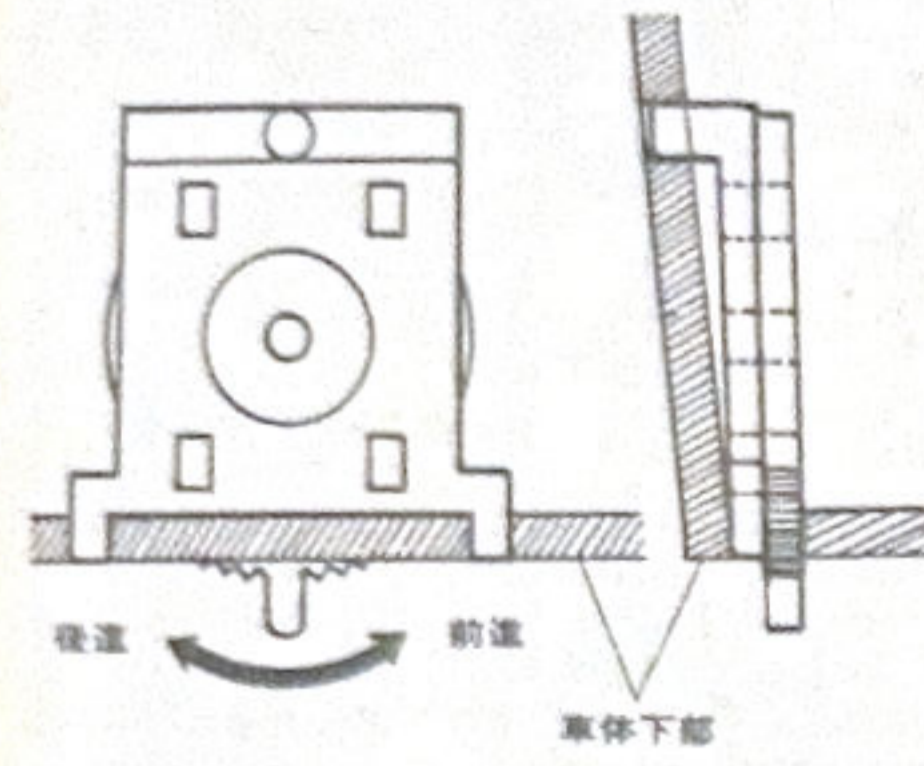
★ランナー（枝）を利用して上図のようにまわしながらローソクであたためて曲ったらローソクからはなし、ゆっくりひっぱると細くなります。動かさずに15秒ぐらい冷したら8mmの長さに2本切ります。  
 ★アンテナは火を使って作りますから充分注意して作りましょう。



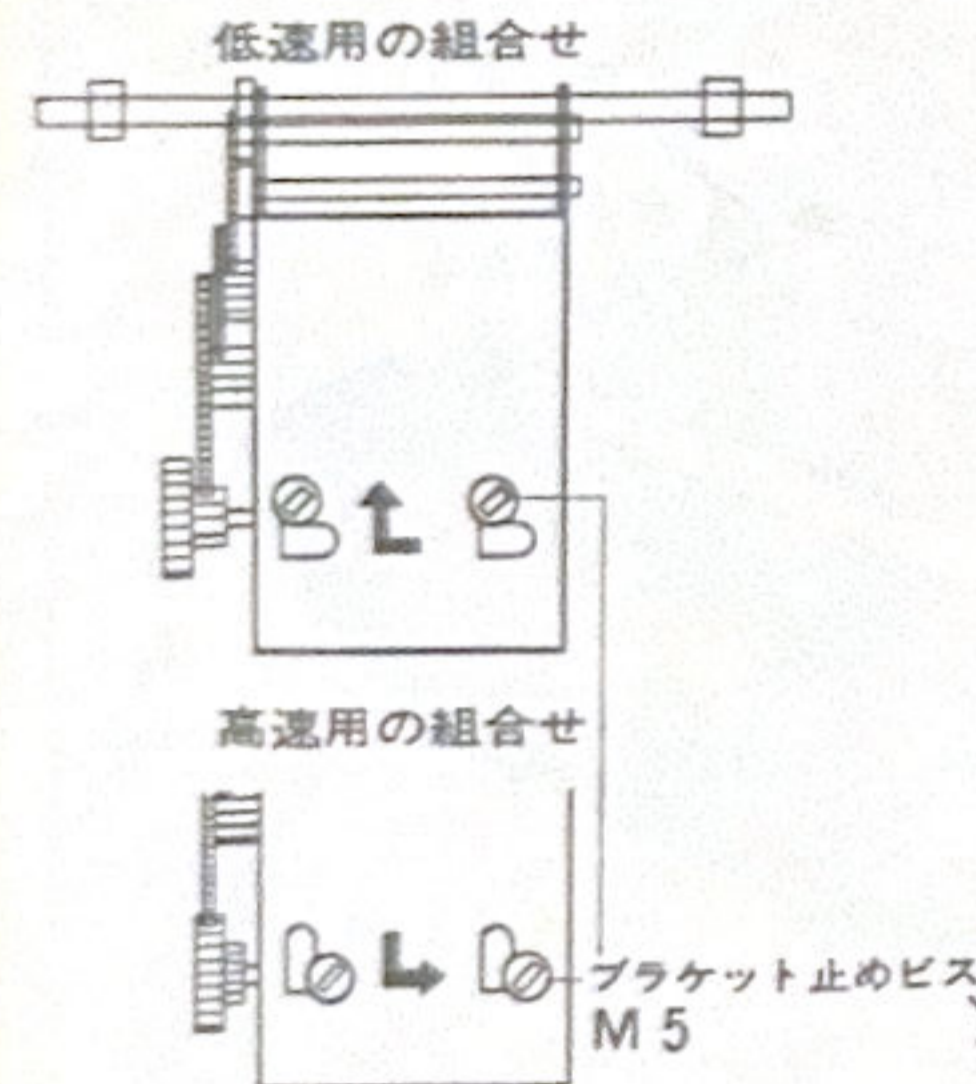
⑥ 〈ピニオンギヤの打ちこみ〉  
 ★モーターとピニオンギヤの間隔は2mm位に打ち込みます。

⑦ 〈車体下部のくみため〉  
 ★乾電池を入れてスイッチ及びギヤボックスのテストを行なって下さい。

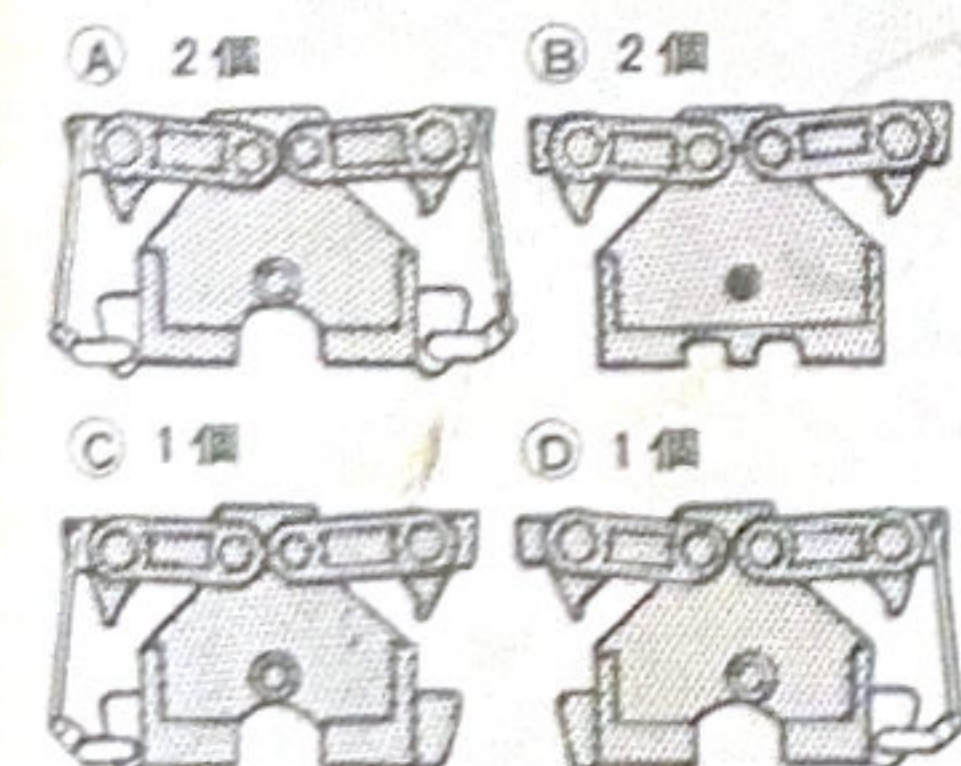
〈スイッチのとりつけ位置〉



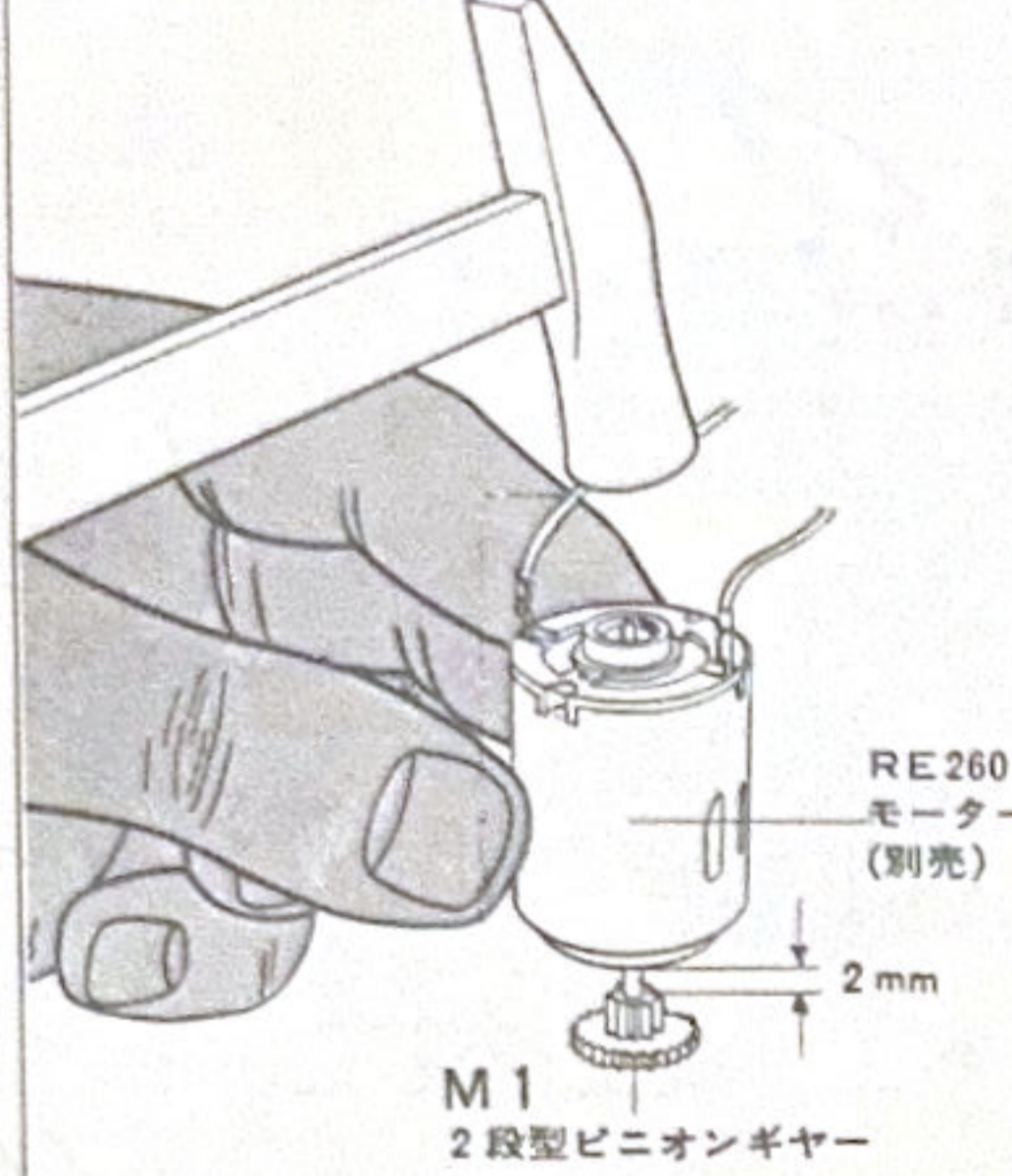
〈ブラケットの移動による速度調節〉  
 ブラケットは取り付け方によって、低速と高速の2種類にチェンジすることができます。  
 低速は下図の様に矢印の方向にブラケットを固定します。急坂や馬力アップに適し、力強く走行させることができます。  
 ギヤボックスギヤとピニオンギヤとの噛み合わせの調節はブラケット止めビスをゆるめ移動させて行ないます。



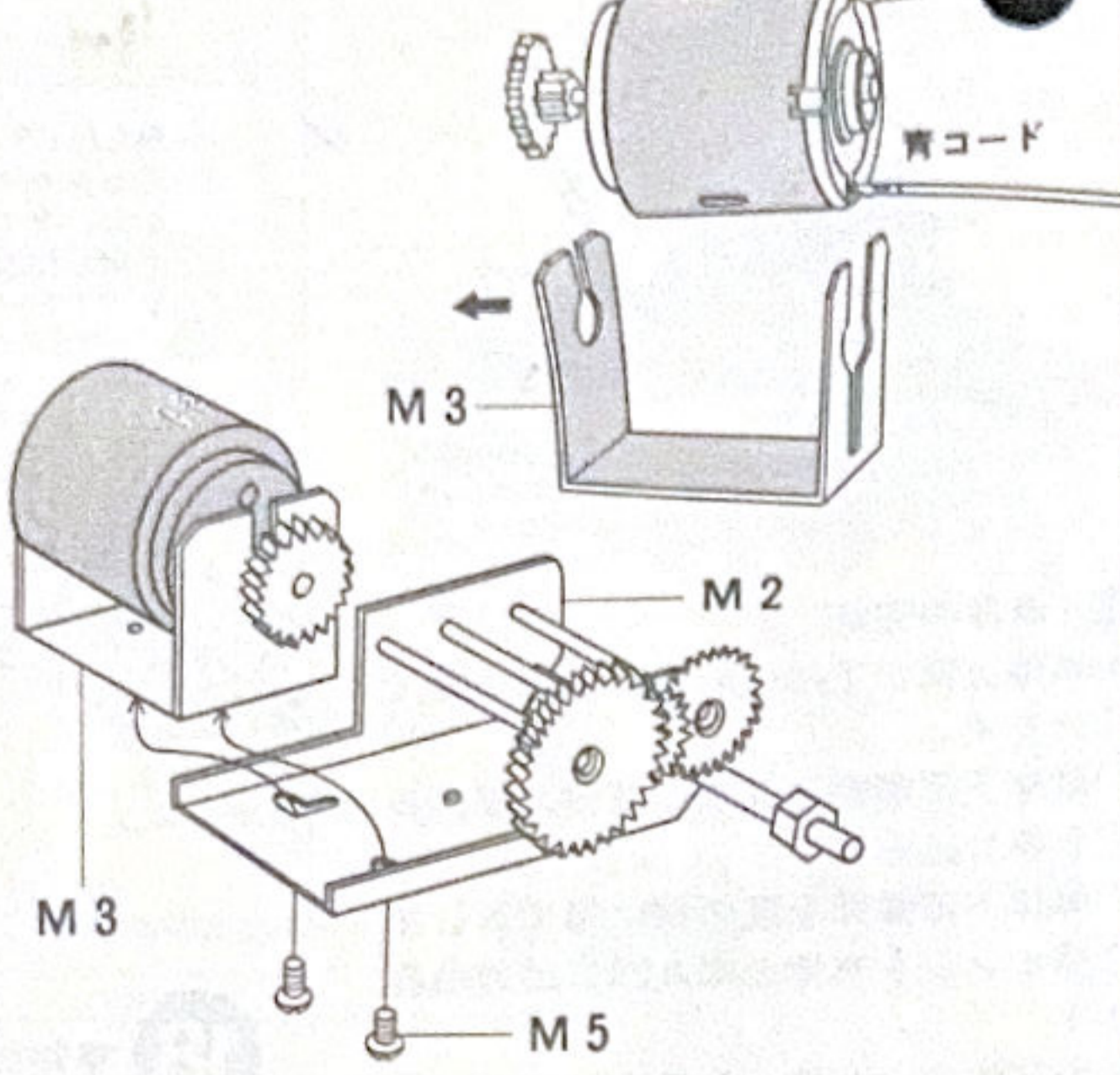
⑩ 〈ロードホイルのとりつけ〉  
 ★サスペンションには下図の様にA (26、27、28、29) の4種類あります。各部品にA、B、C、Dと文字がきざんでありますから車体下部のA、B、C、Dに合わせて接着して下さい。



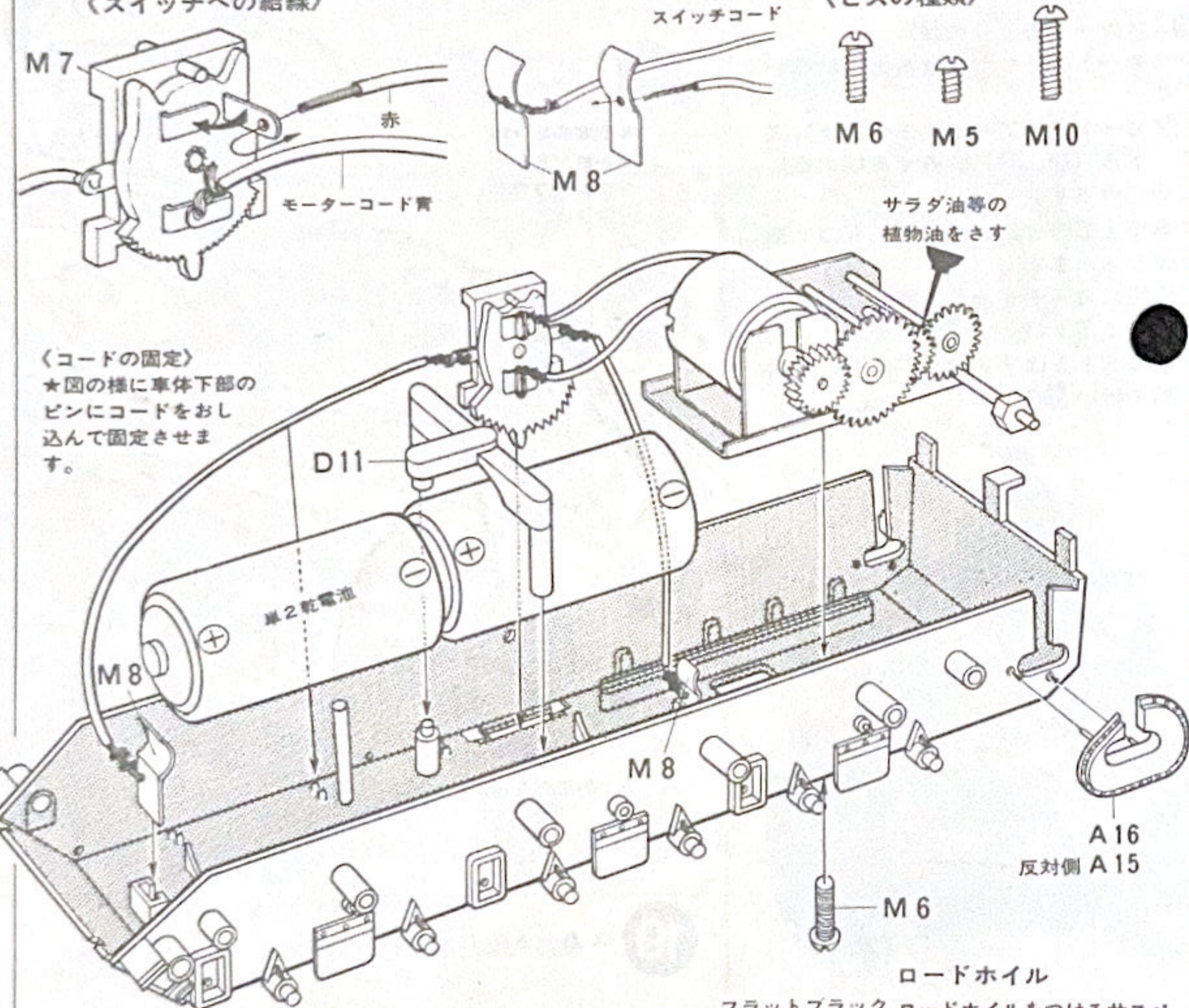
⑥ ピニオンギヤの打ちこみ



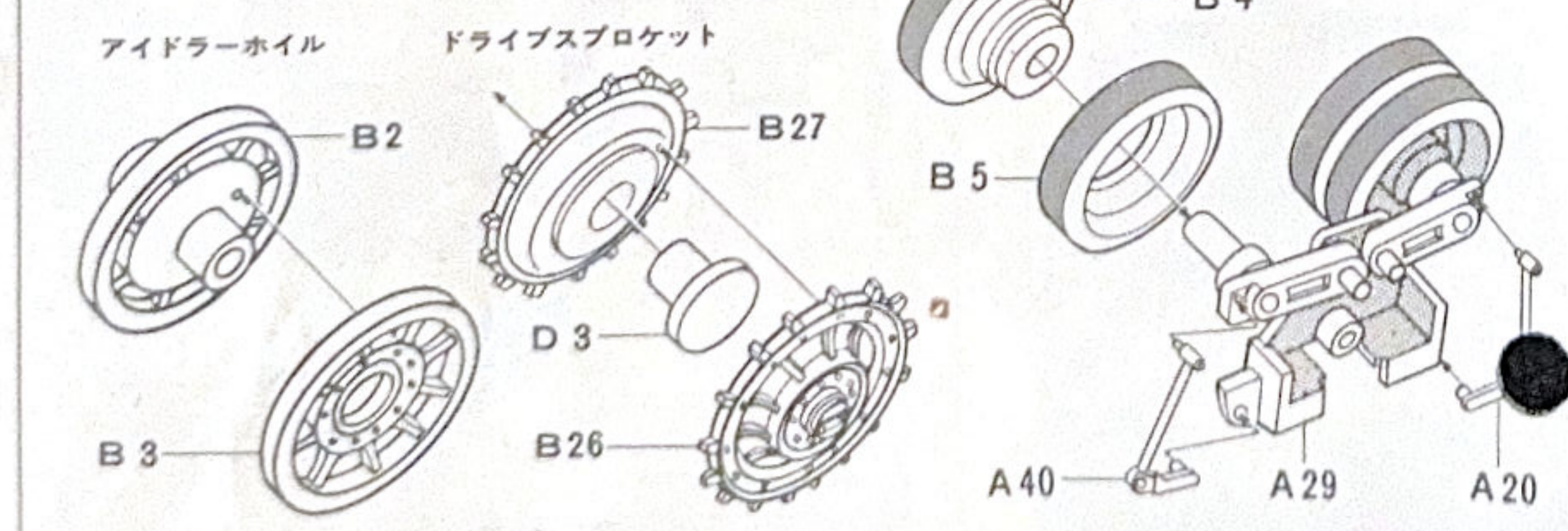
⑦ ギヤボックスのくみため



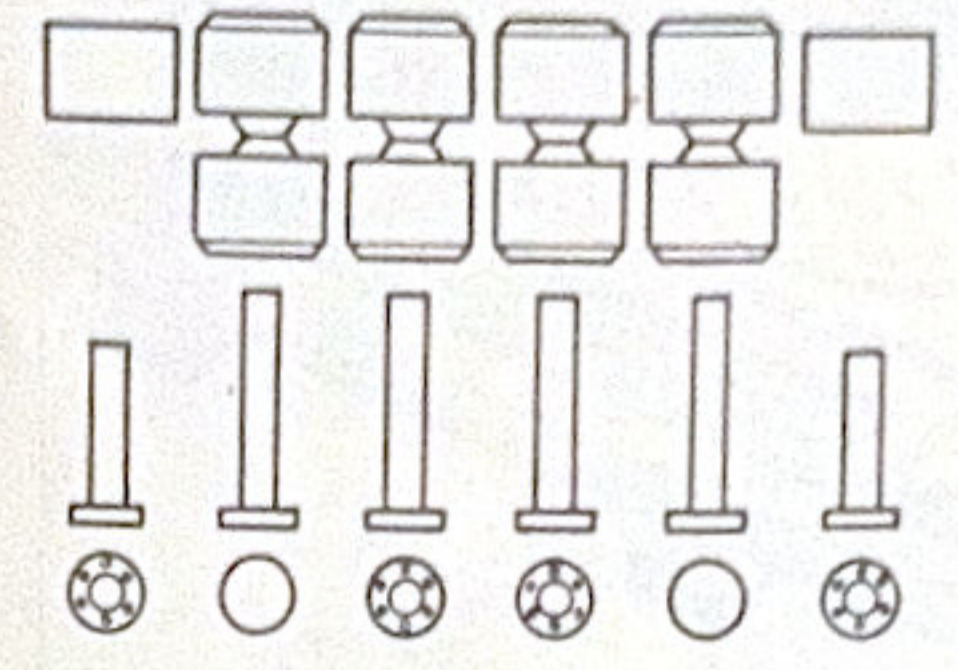
⑧ 車体下部のくみため



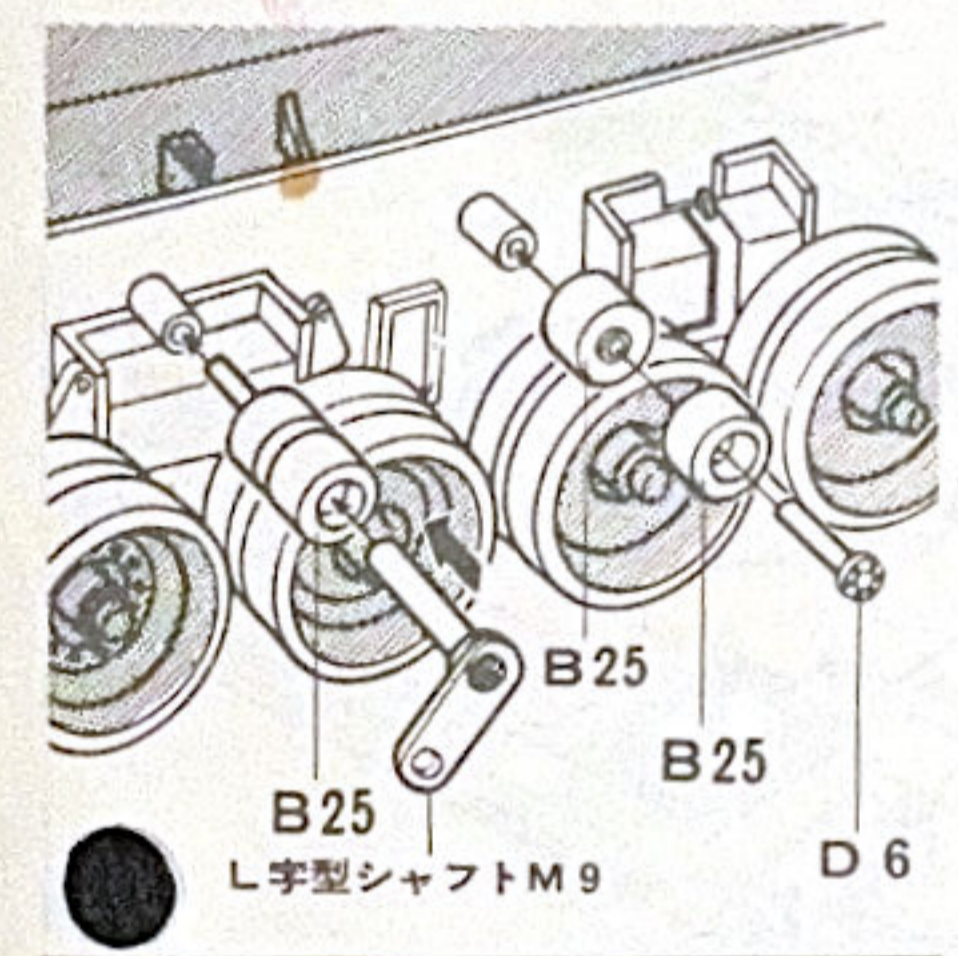
⑨ ホイルのくみため



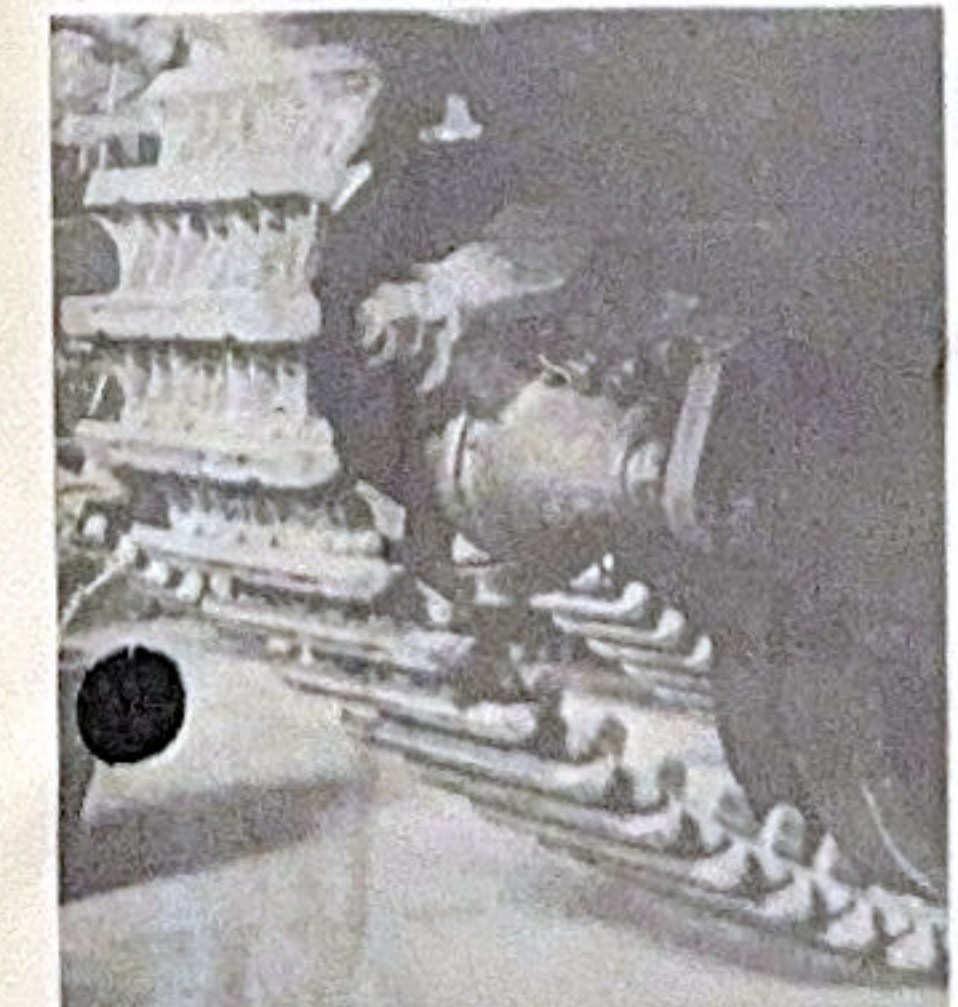
⑪ 〈サポートローラーのとりつけ〉  
 ★サポートローラーには下図の様に2種類あり、ローラーを止める軸は3種類あります。



★サポートローラーのとりつけは下図の様に図-12で使用するL字型シャフトM9を使ってローラーピンD (5、6、7) を車体下部いっぱいまで差し込みます。

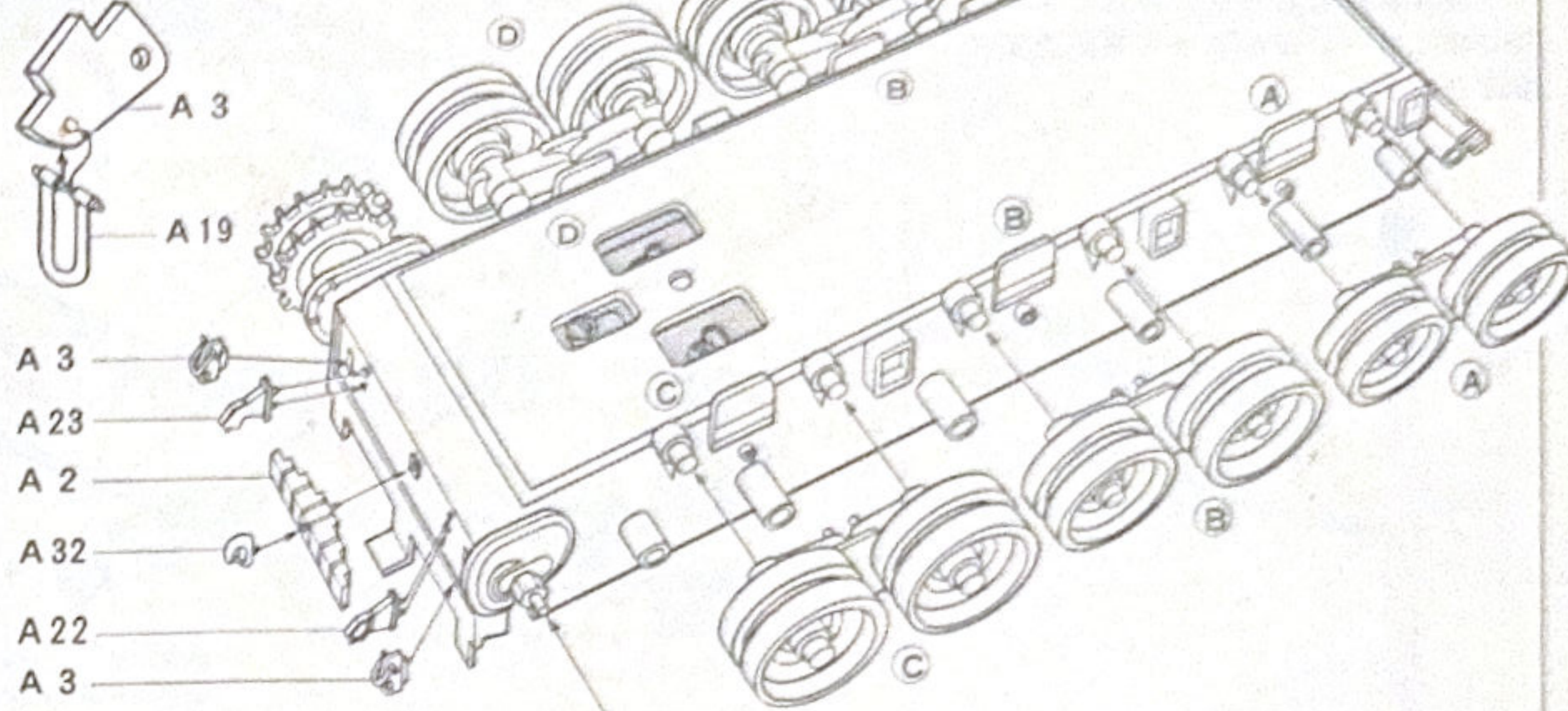


＝スムーズな走行を楽しむために＝  
 ★可動部に油をさすのが一番よい方法です。  
 ★動物性の油〔機械油〕はプラスチックを侵しますから、サラダオイル等の植物性油が良いでしょう。

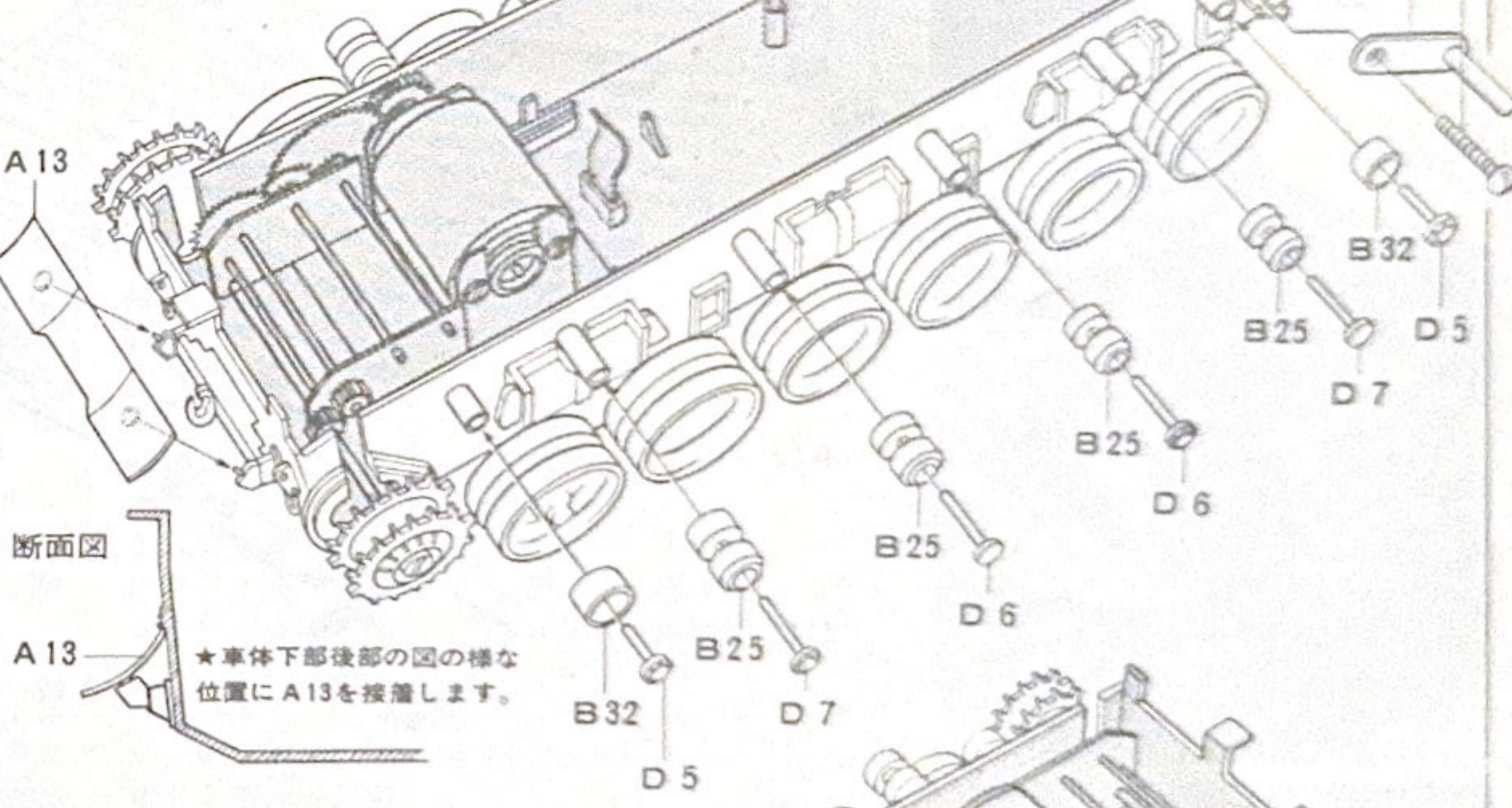


⑩ ロードホイルのとりつけ

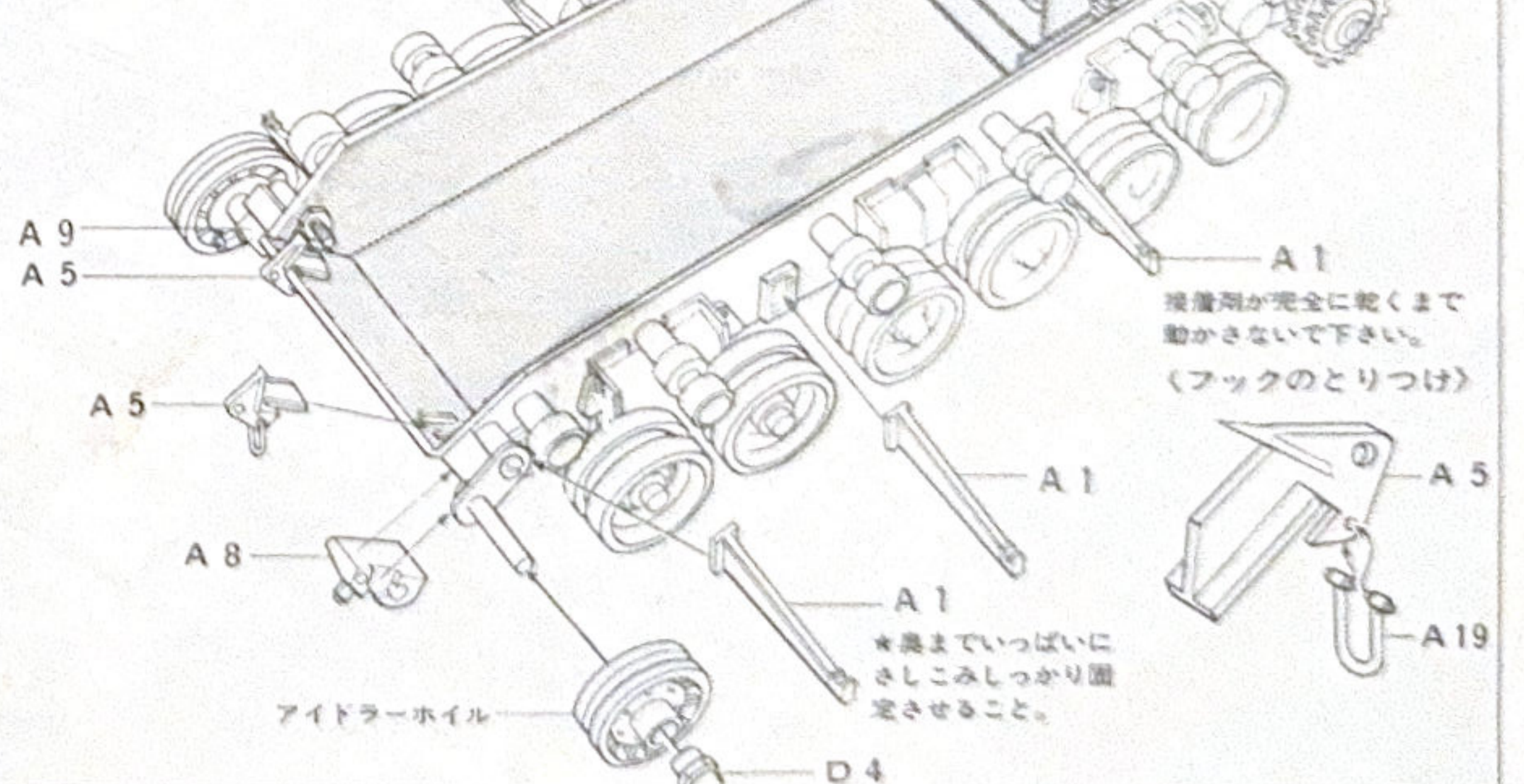
〈フックのとりつけ〉



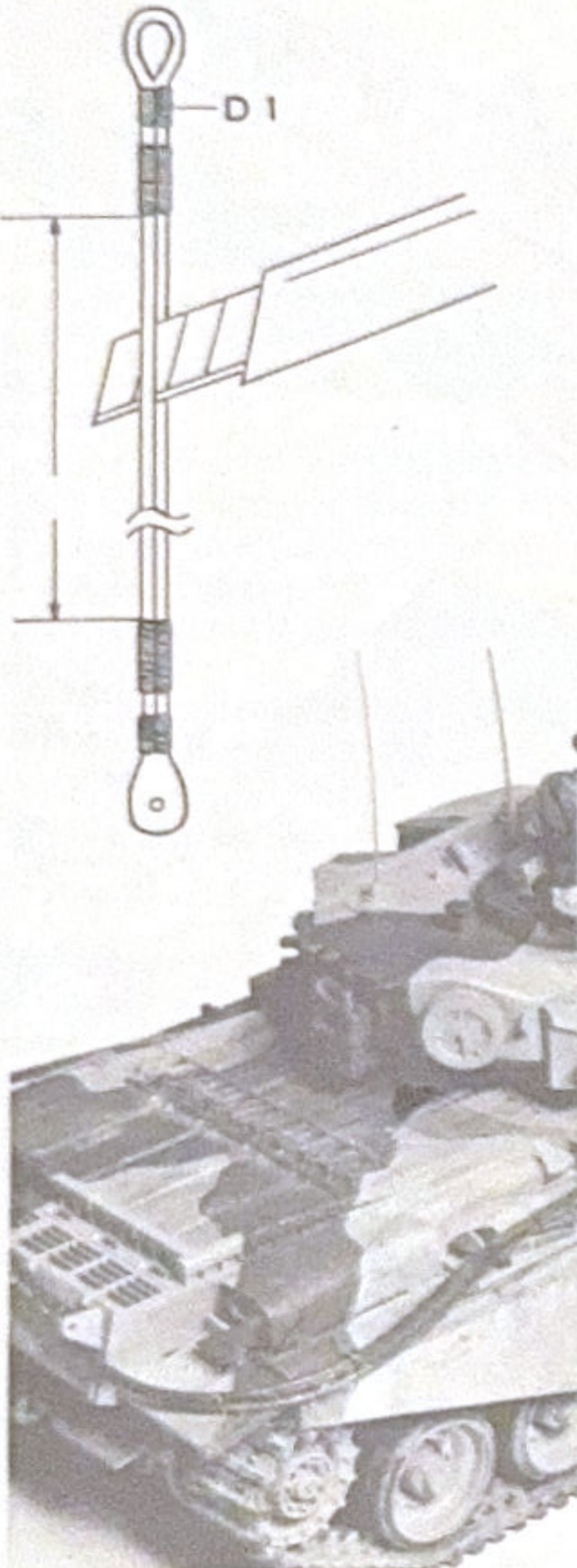
⑪ サポートローラーのとりつけ



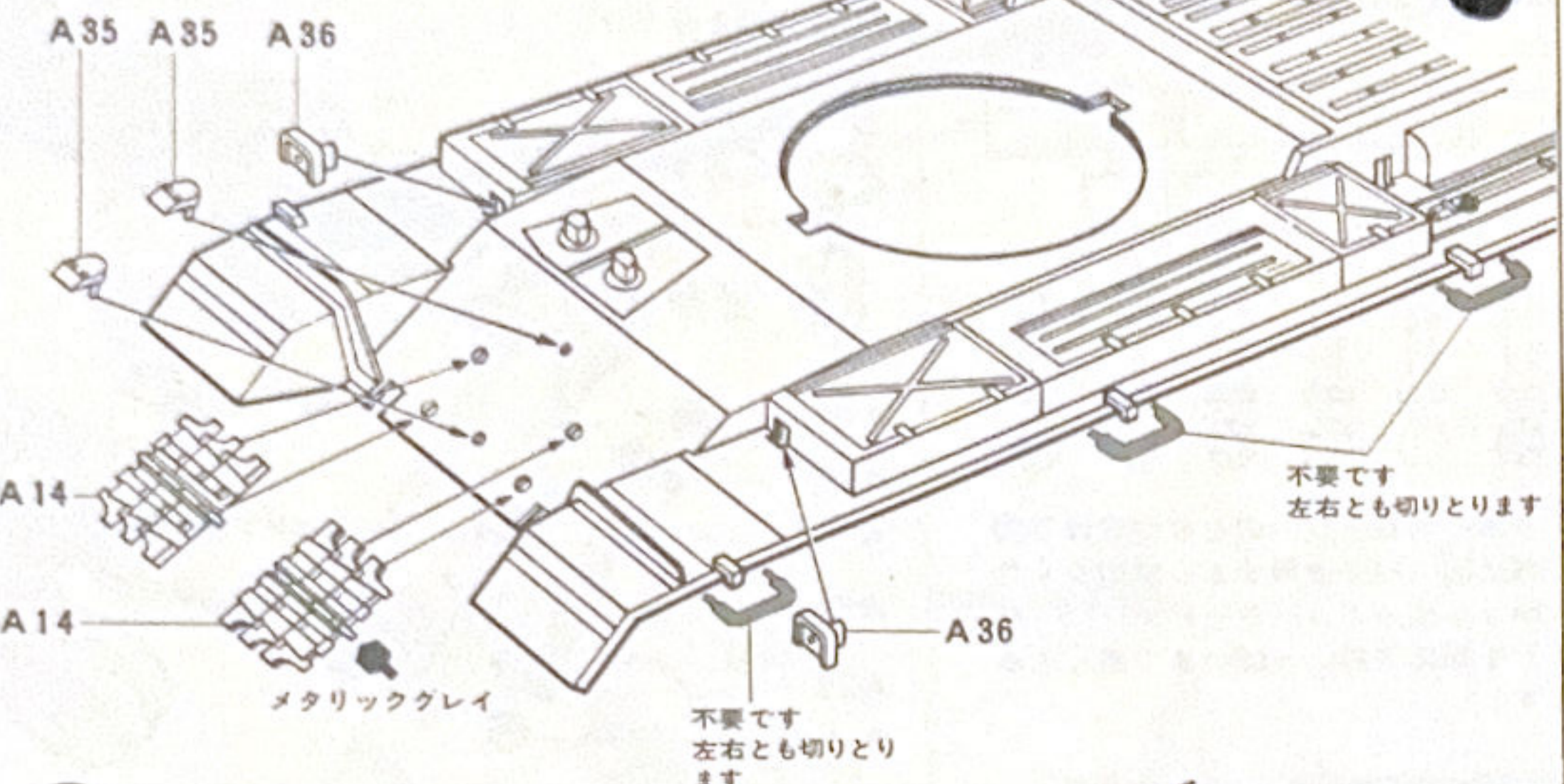
⑫ アイドラーホイールのとりつけ



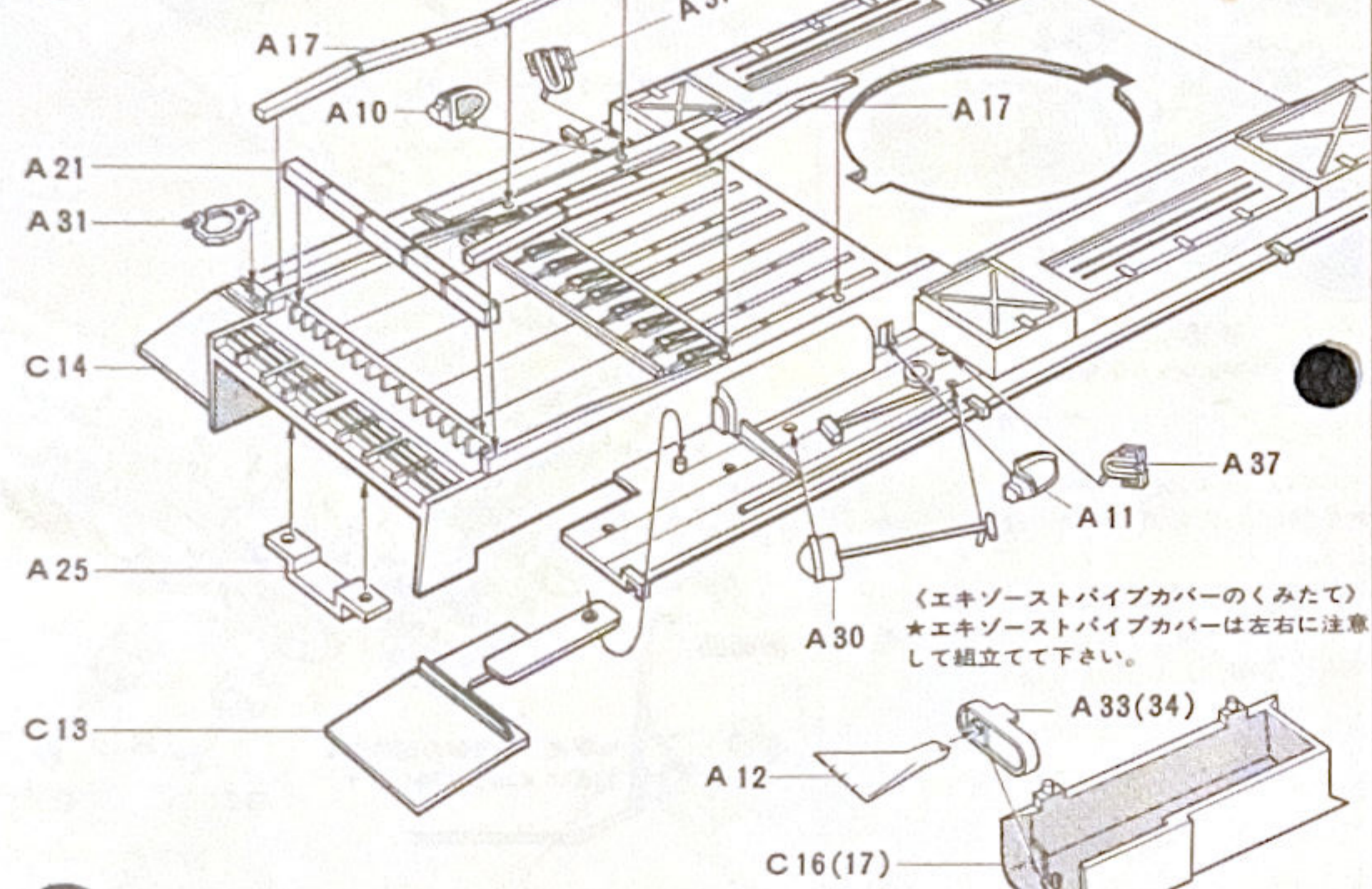
⑫ (車体上部のくみため) (ワイヤーロープの切りこみ) ★ワイヤーロープをナイフ等でいいいに矢印の間だけ切りこみます。★車体上部にとりつける場合にはリヤーパネルB28をしっかりと接着してから図の様にロープをねじって車体上部に固定させます。



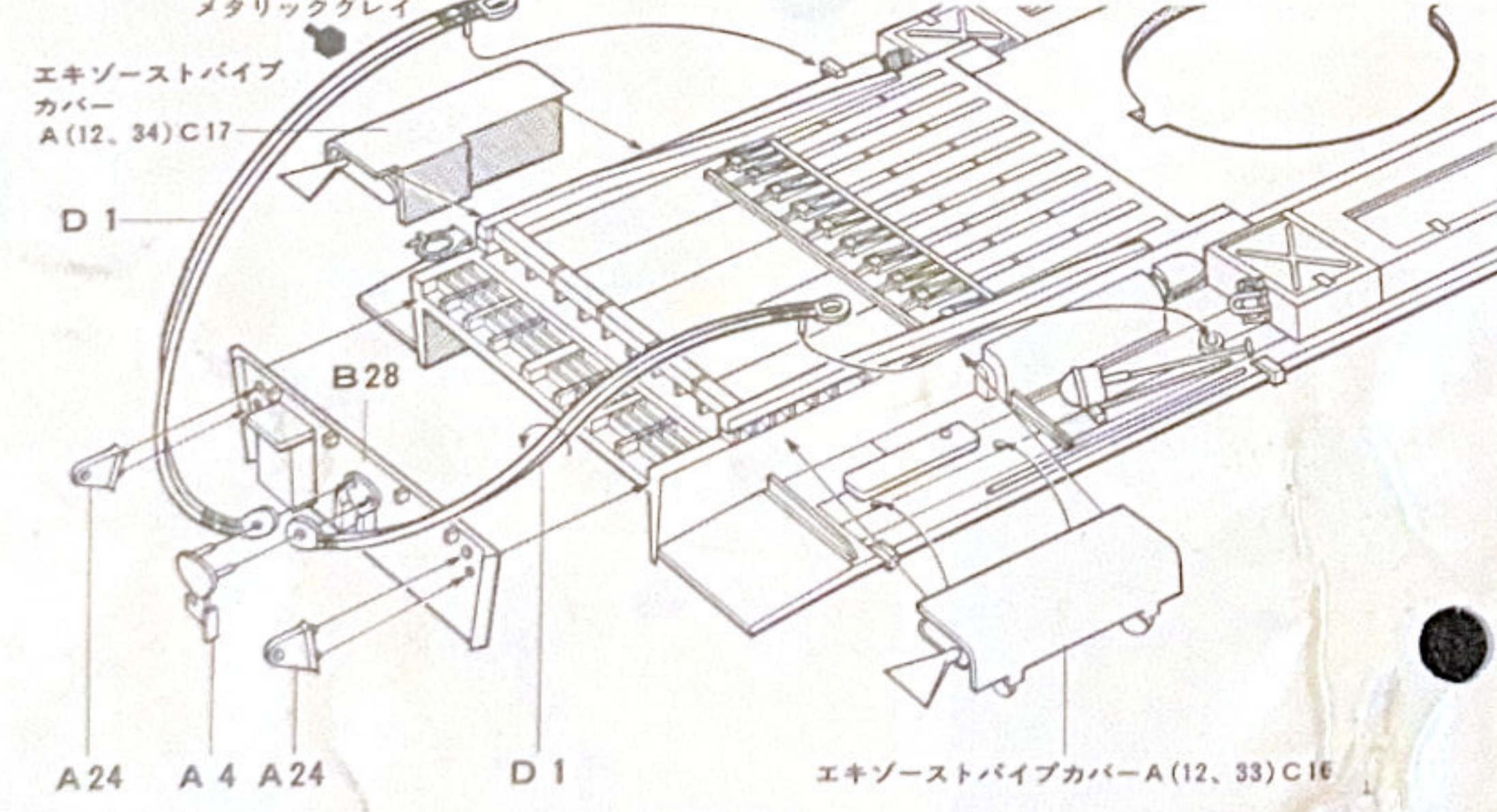
13 車体上部のくみためA



14 車体上部のくみためB

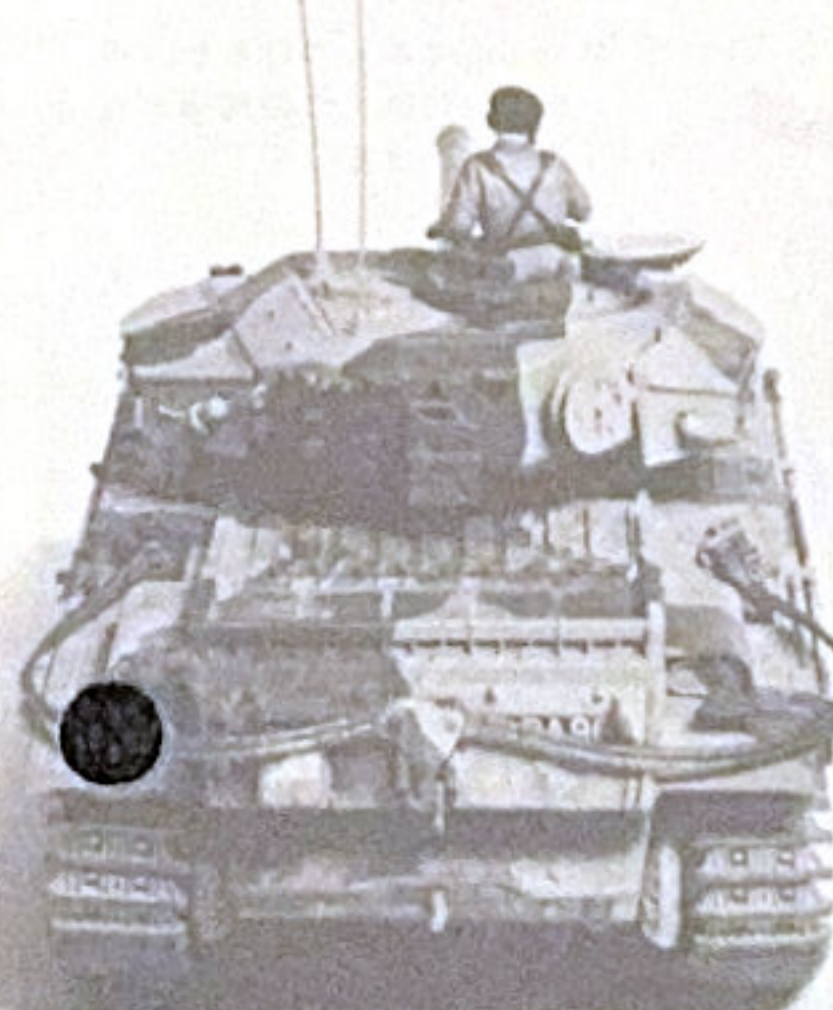
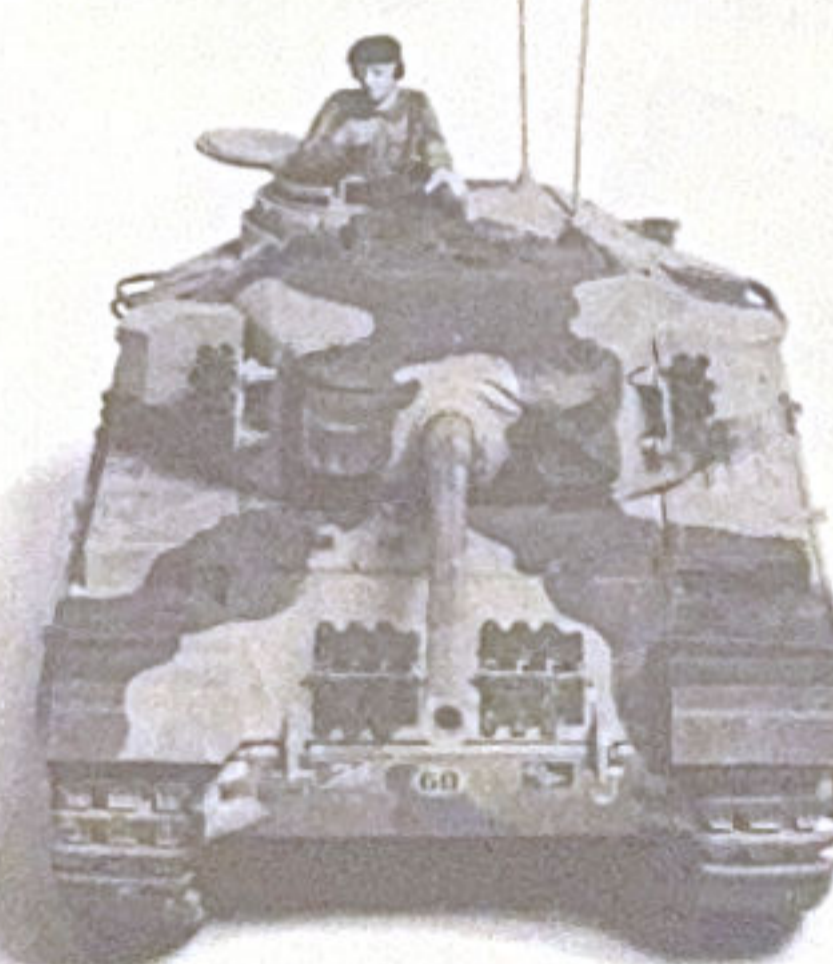


15 車体上部のくみためC

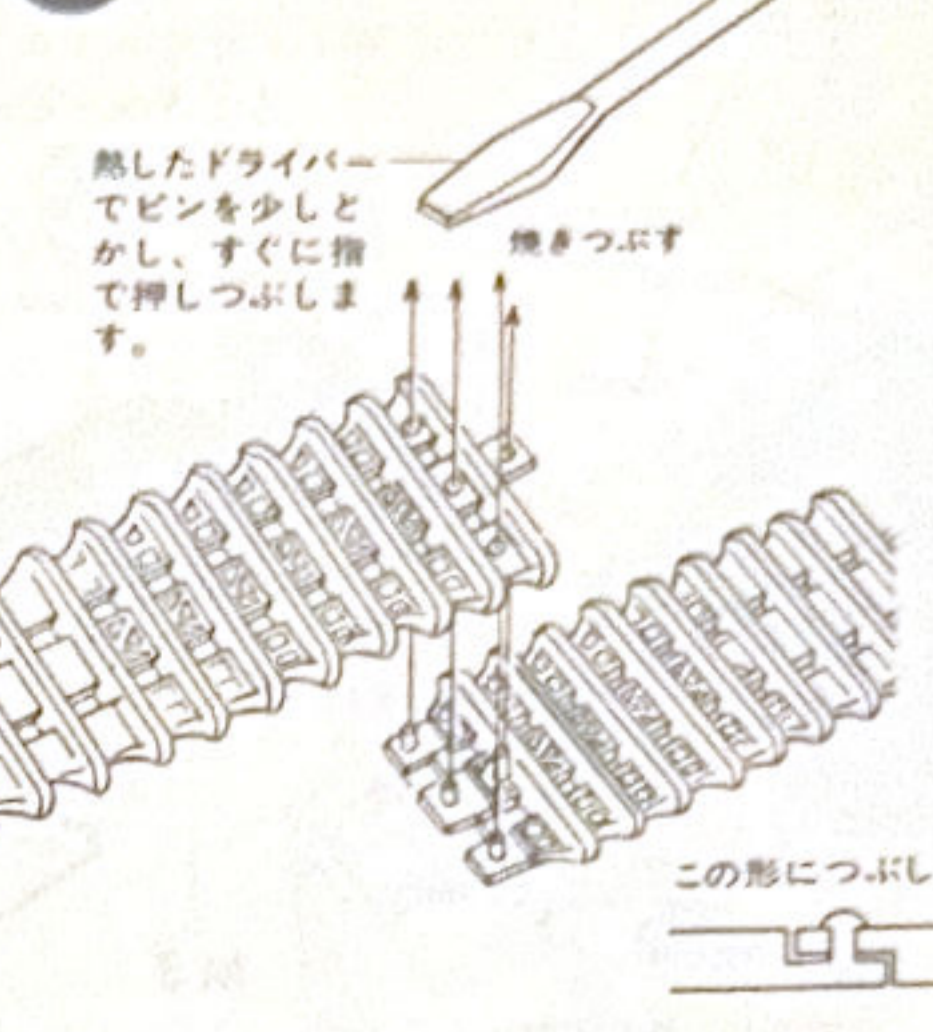


⑬ (車体の完成) ★車体上部と下部の組み方は次の順で行います。①車体下部前部のA5に車体上部のみぞを差し込みます。②車体下部後部を図の様に指しておいて後部ヒンジを車体上部A25にはめ込みます。★乾電池を入れ換える場合には上の反対の順に行います。

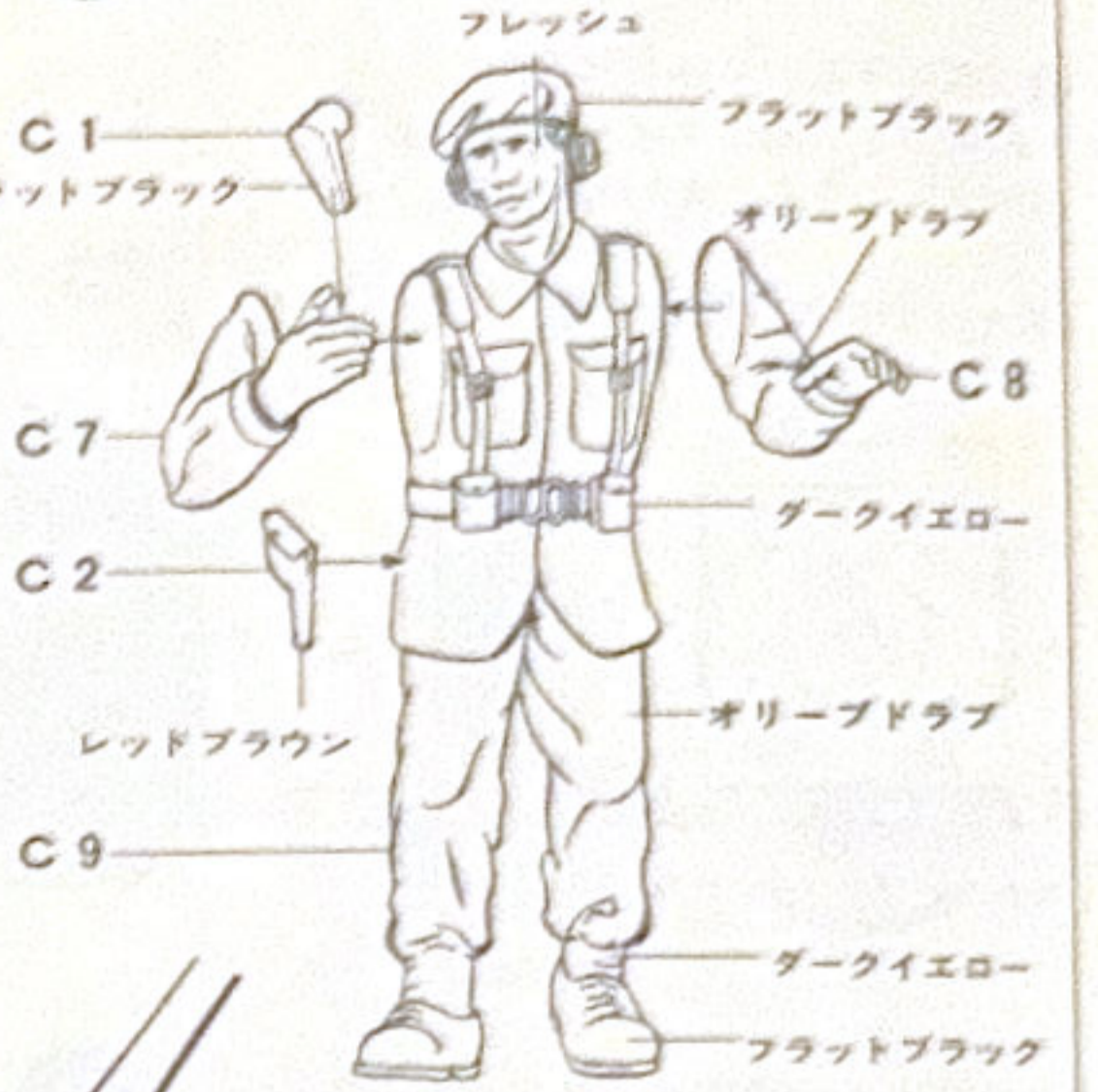
⑭ (スカートのと取り付け) ★スカートのと取り付けは次の順に行います。①スカート支持アームA1のみぞにスカートA(18, 38)のみぞを図の様にはめ込みます。②車体上部のヒンジにスカートの上部を差し込みます。この時スカートを上から押しながらかしめて下さい。★スカートをはずす場合には上の反対の順で行います。



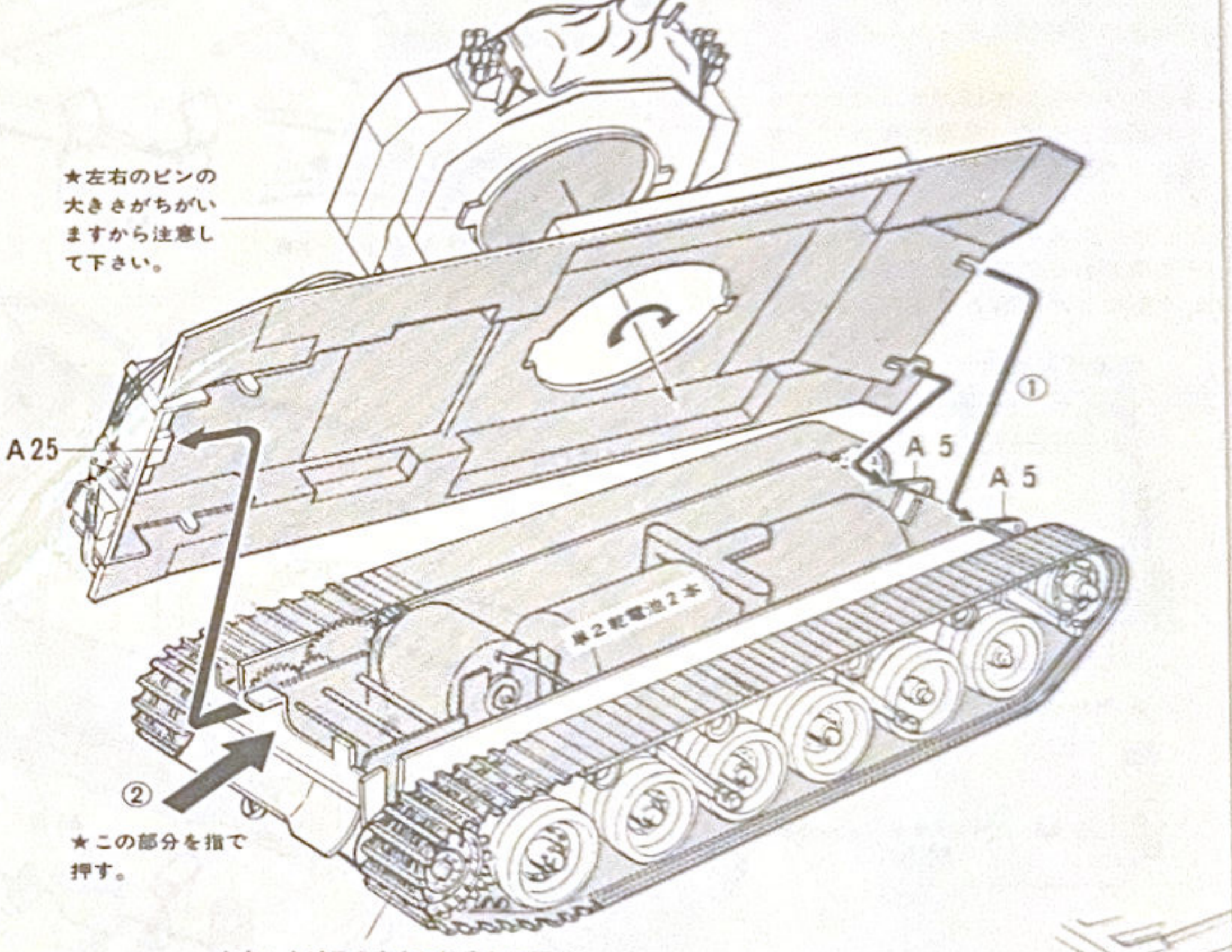
16 キャクピラの連結方法



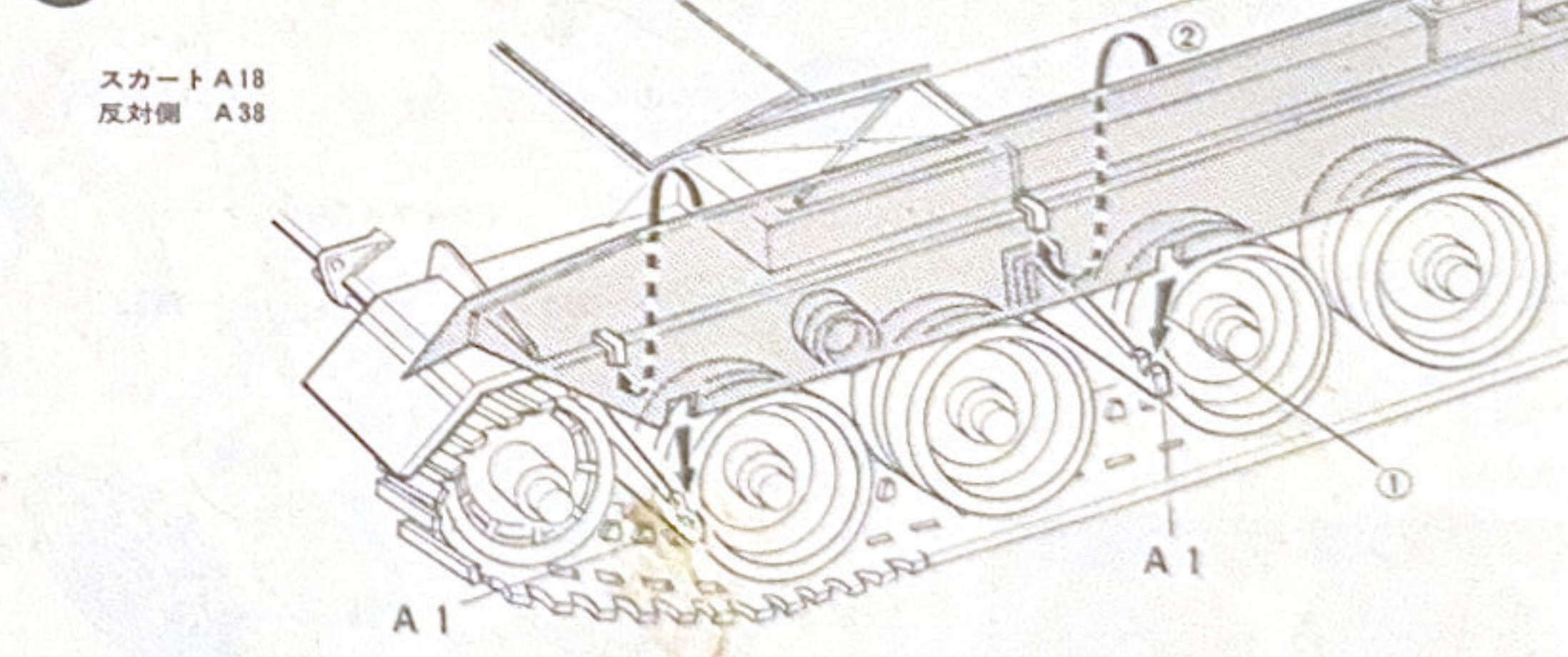
17 人形のくみため (PAINTING)



18 車体の完成



19 スカートの取り付け



PARTS

A 部品

- 1. スカート支持アーム 2. 板バネ
- 3. リキヤフック 4. ワイヤロープホルダー
- 5. フロントフック 6. 弾丸(アクセサリ)
- 7. から蓋きょう(アクセサリ)
- 8. アイドラーホイールカバー(左)
- 9. アイドラーホイールカバー(右)
- 10. エキゾーストパイプカバーA(左)
- 11. エキゾーストパイプカバーA(右)
- 12. エキゾーストパイプ 13. エアーディフレクター板
- 14. 砲塔後部補助キャタピラ
- 15. ファイナルドライブ(右)
- 16. ファイナルドライブ(左)
- 17. エンジンカバーガイドA
- 18. スカート(左) 19. U型フック
- 20. サスペンションアームA
- 21. エンジンカバーガイドB
- 22. 板バネ支持板(左) 23. 板バネ支持板(右)
- 24. リキヤパネルフック 25. 車体止め
- 26. サスペンションC 27. サスペンションD
- 28. サスペンションB 29. サスペンションA
- 30. スコップ 31. ガントラベルフック
- 32. 牽引フック 33. エキゾーストパイプ板(右)
- 34. エキゾーストパイプ板(左)
- 35. 前照灯 36. フロントカバー
- 37. ワイヤロープストッパー
- 38. スカート(右)
- 39. リモコンアダプター(シングルの時不要)
- 40. サスペンションアームB

B 部品

- 1. スモークディスチャージャー
- 2. アイドラーホイール(表) 3. アイドラーホイール(裏)
- 4. ロッドホイール(表) 5. ロッドホイール(裏)
- 6. アンテナホルダー 7. ベリスコップカバー
- 8. 機銃 9. 砲身先端
- 10. 砲塔後部補助キャタピラ
- 11. ガンシールド 12. ガンドラム
- 13. キューボラレールB 14. 平すり
- 15. ターレットフック 16. 消火器
- 17. 砲身A 18. 砲身B
- 19. 水タンク 20. リールケーブル(表)
- 21. リールケーブル(裏) 22. リールケーブルホルダー
- 23. スモークディスチャージャーアームA
- 24. スモークディスチャージャーアームB
- 25. サポートローラーA 26. ドライブプロケット(表)
- 27. ドライブプロケット(裏)
- 28. リキヤパネル 29. エスケープハッチ
- 30. コマンダーハッチ 31. キューボラレールA
- 32. サポートローラーB

C 部品

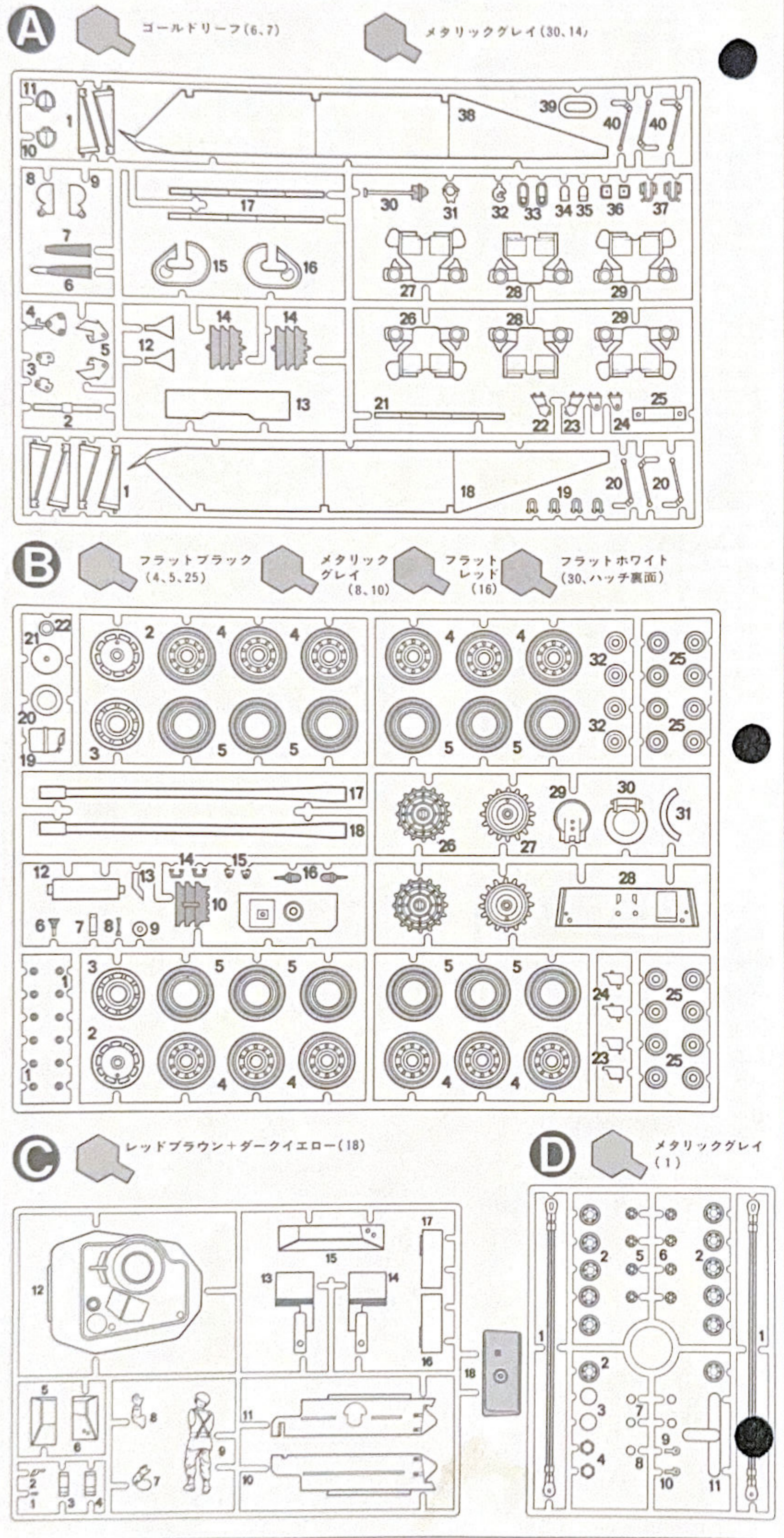
- 1. マイク 2. 準銃ホルスター
- 3. スモークディスチャージャーボックス(左)
- 4. スモークディスチャージャーボックス(右)
- 5. 運具箱A 6. 運具箱B
- 7. コマンダー右腕 8. コマンダー左腕
- 9. コマンダー胴体 10. 砲塔(右)
- 11. 砲塔(左) 12. 砲塔(上面)
- 13. フェンダー(右) 14. フェンダー(左)
- 15. 運具箱C
- 16. エキゾーストパイプカバー(右)
- 17. エキゾーストパイプカバー(左)
- 18. キャンバス

D 部品

- 1. ワイヤロープ
- 2. ロッドホイールポリキャップ
- 3. ドライブプロケットポリキャップ
- 4. アイドラーホイールポリキャップ
- 5. サポートローラーピンA
- 6. サポートローラーピンB
- 7. サポートローラーピンC
- 8. リールケーブルピン
- 9. コマンダーハッチヒンジA
- 10. コマンダーハッチヒンジB
- 11. 電池ホルダー

M 部品 (金属パーツ)

- 1. ビニオンギヤ(1) 2. ギヤボックス(1)
- 3. モーターブラケット(1)
- 4. ブラケット止めビス(2)
- 5. ギヤボックス止めビス(1)
- 6. 逆転スイッチ板(1)
- 7. 7. 逆転スイッチ板(1) 8. 電池受金具(2)
- 9. L字型アイドラーホイールシャフト(2)
- 10. L字型アイドラーホイールシャフト止めビス(2)
- 11. L字型アイドラーホイールシャフト止めナット(2)



PAINTING

<イギリス戦車の色について>

センチュリオンは生産国イギリスを中心にイスラエル・オーストラリアなど多くの国々で使用されています。大戦後のイギリス戦車の塗装は、ダークグリーン一色による塗装が最も一般的に使われ、センチュリオンでもこのダークグリーンの単一色塗装がよく使われています。イスラエルなどの砂漠地帯では少し青みがかったダークイエローの単一色。雪の積る地域では全面フラットホワイト色の塗装というものもあります。センチュリオンの迷彩塗装の中で多く見られるものにダークイエローとレッドブラウンを使用したものがあります。この2色迷彩塗装の特徴は、それぞれの色の塗装面積が広く、ぬりわけの境界線がはっきりしている事です。

これらはいずれもイギリス戦車迷彩塗装の伝統でしょうか、ホカシ塗装やほん点迷彩はほとんど見られません。

少し変わった迷彩にダークグリーンとフラットブラック、パールグレイの3色を使用したものがあります。このうち迷彩に使われる色はダークグリーンにフラットブラックで、やはり大まかな迷彩になっています。パールグレイは明るい灰色で、車体下部や砲塔基部など戦車の影になる部分に塗装されます。

イギリス戦車だけでなく戦車の塗装色の決め方として、遠方から見てグレイに見えなければならぬという原則があります。

つまり戦車の色が背景にとけ込んでしまうわけで各種の迷彩パターンと同じように単一色にもカモフラージュという重要な役割があるわけです。

<塗装する前> 塗料は各部分の色を変える為に塗るものではありません。塗装することによって鉄の肌や各部分の持つ材質感をひきたたせ、実感を出す為にするものです。

そのために各部分が多様なものでできているかを知ることが大切です。

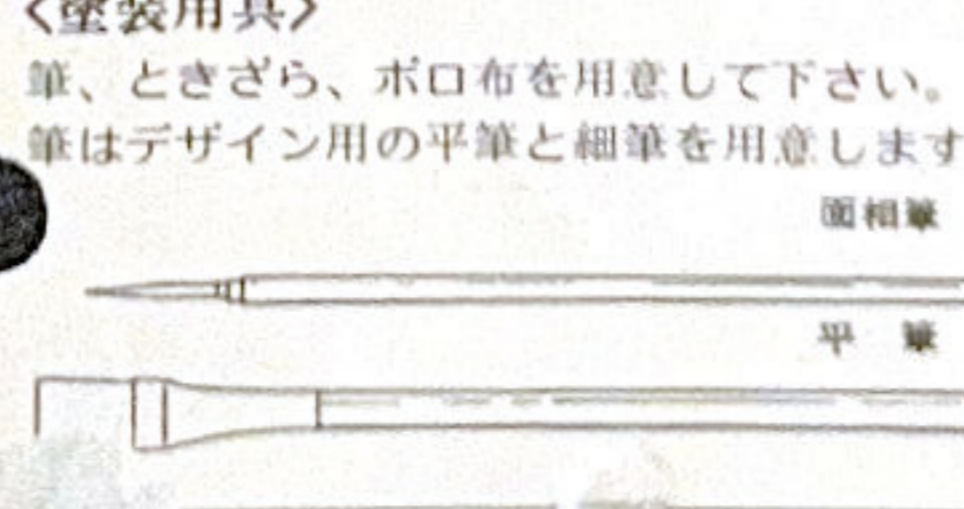
特に塗装にあたって注意したいことは次の点です。

- (1) 塗装面に付いている、ほこりや油をボロ布でふき取って下さい。
- (2) 部品と部品との合わせめ、接着剤のはみだした箇所はカッターナイフ、やすり等できれいにけずり取って下さい。
- (3) 1/35の戦車の場合、完全に組み立ててから塗装に入ってください。

(すべての塗料は引火性ですから火気には充分注意して下さい。)

<塗装用具> 筆、ときざら、ボロ布を用意して下さい。筆はデザイン用の平筆と細筆を用意します。

共に毛質がやわらかく穂先の長い筆が使いたいでしょう。塗料を溶かすにはセトモノの小皿を使います。塗装が終わったら、筆や皿はラッカーシンナーでよく洗い次に水洗いしてから保存します。



共に毛質がやわらかく穂先の長い筆が使いたいでしょう。塗料を溶かすにはセトモノの小皿を使います。塗装が終わったら、筆や皿はラッカーシンナーでよく洗い次に水洗いしてから保存します。

<塗料と溶剤>

戦車の車体の塗装にはタミヤで発売されているスプレー式タミヤカラーをご使用下さい。

TAMIYA COLOUR

- ダークグリーン.....DARK GREEN
- レッドブラウン.....RED BROWN
- オリーブドラブ.....OLIVE DRAB
- ダークイエロー.....DARK YELLOW
- ジャーマングレー.....GERMAN GREY

★塗装には、バクトラタミヤカラーが便利です。各部分の色はバクトラタミヤカラーで指定してあります。

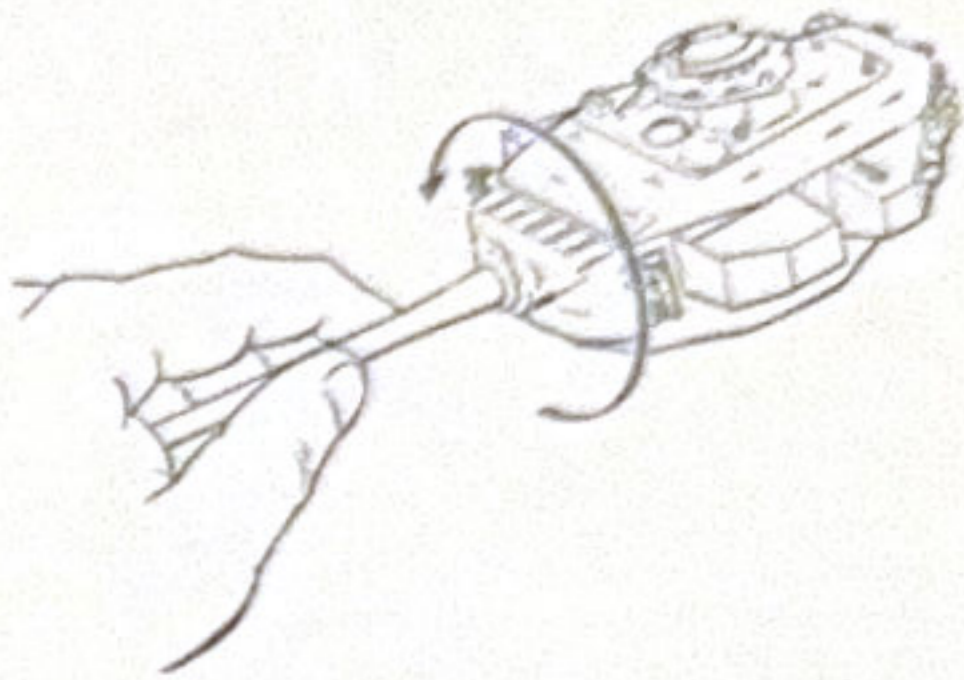
バクトラタミヤ

<使用する塗料の色>

使用する場所	使用する色
金 属	メタリックグレイ
ゴ ム	フラットブラック
布	レッドブラウン+ダークイエロー
メ ッ キ	クロームシルバー
サビの感じ	メタリックグレイ+レッドブラウン
ガラス	ブラック

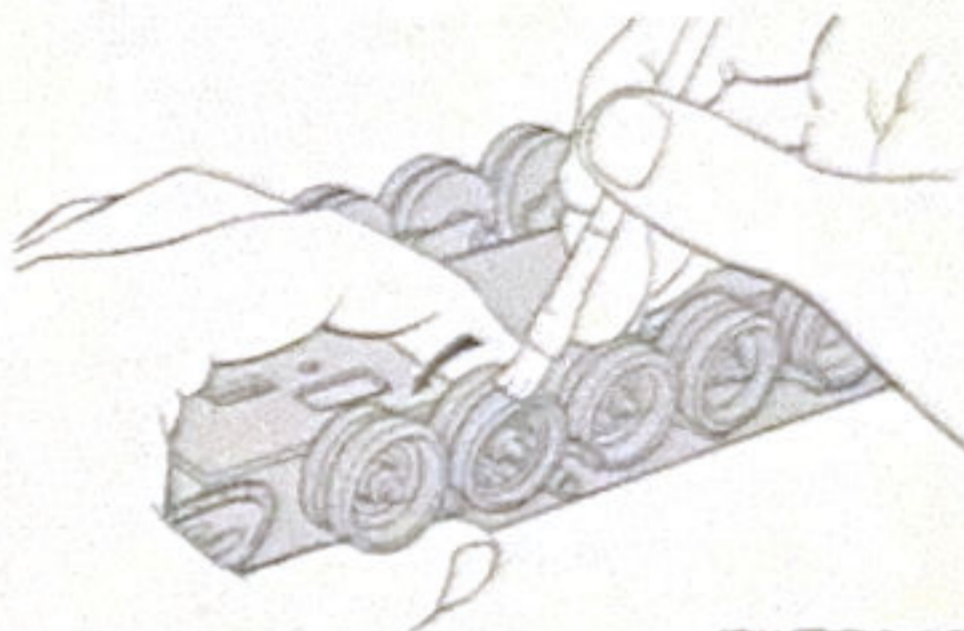
<戦車はこのようにして塗装します。>

まず戦車を完全に組み立ててからタミヤカラーで全体を塗ります。一度に全体を塗ろうとせずに必ず、砲塔、車体上部、車体下部、の3つに分けてタミヤカラーで吹付塗装をしましょう。砲塔を塗装する場合、図の様に砲身を持ち、回転させながら吹き付け塗装をして下さい。タミヤカラーは横にすばやく動かしながら吹付けるのがコツです。一度目が乾いたらうすく2度塗りして下さい。車体上部、車体下部はボール箱の上にのせて塗装します。



<細部の塗装>

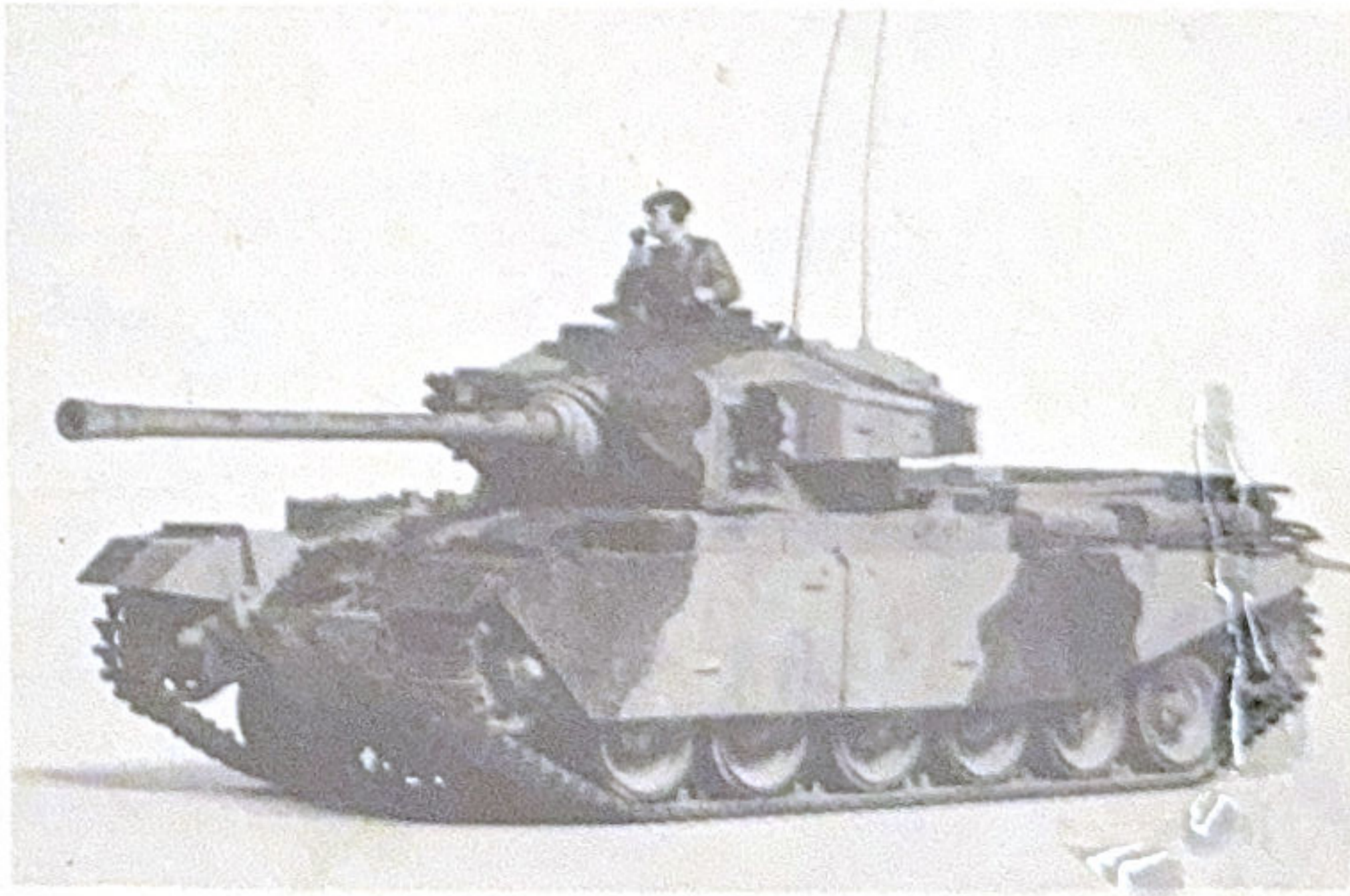
タミヤカラーが完全に乾燥してから細部の塗装に入ってください。ホイールのゴムの塗装は図の様に手でホイールを回転させながら塗装します。その他細部の塗装色はP12、ランナー図、P6-P11の図中に示してあります。

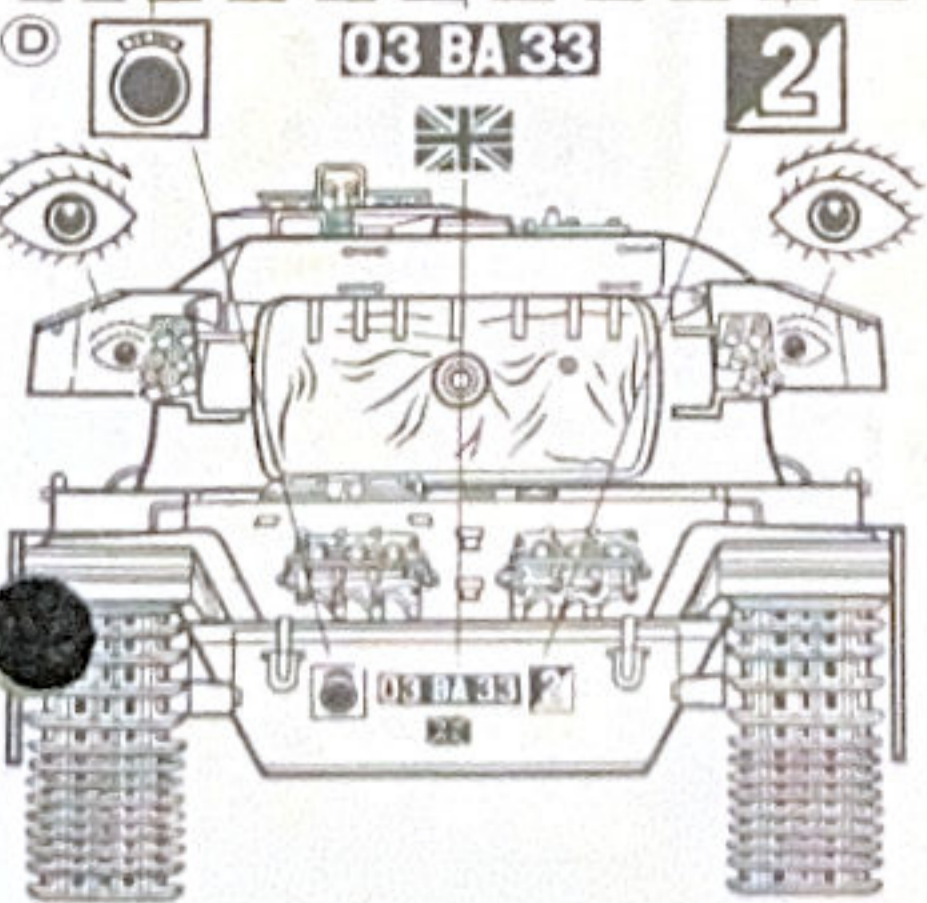
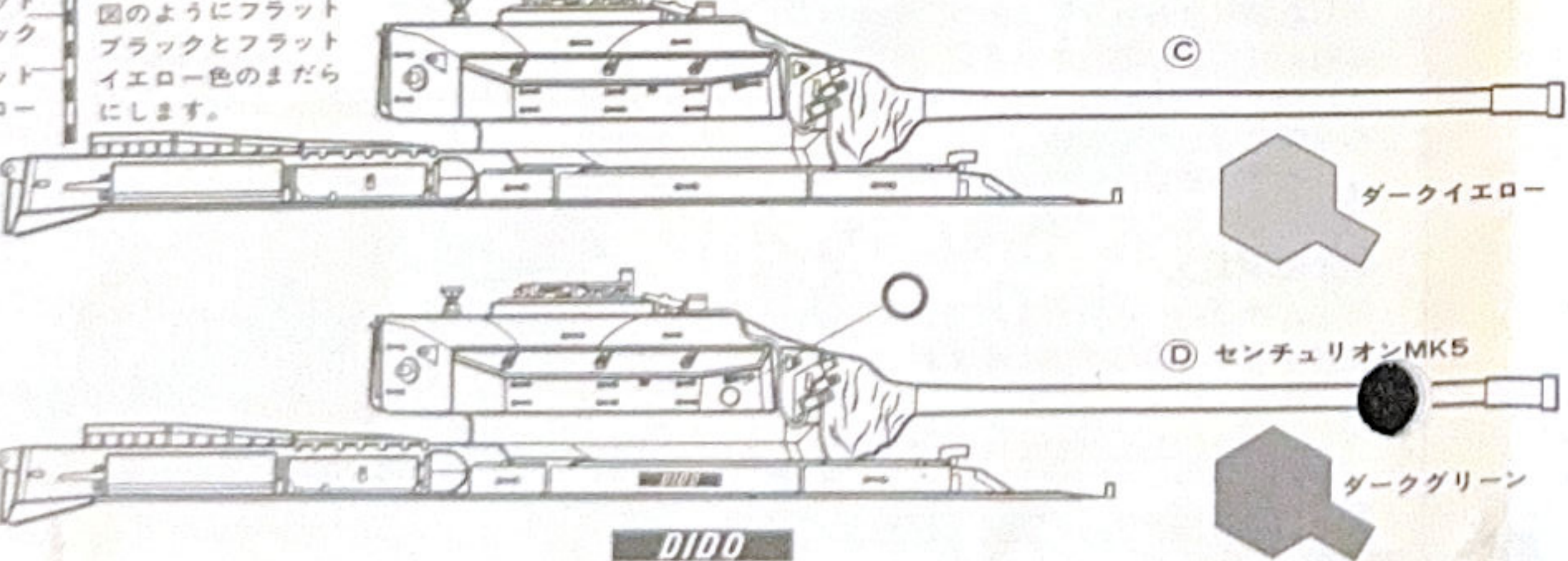
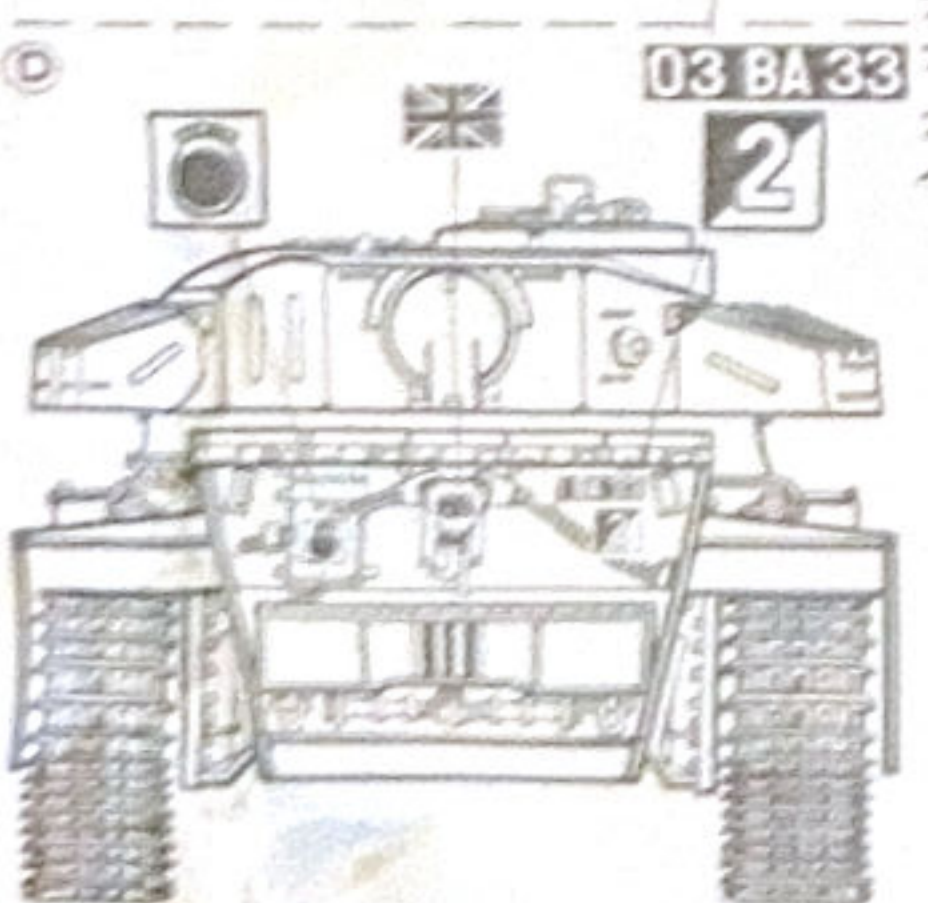
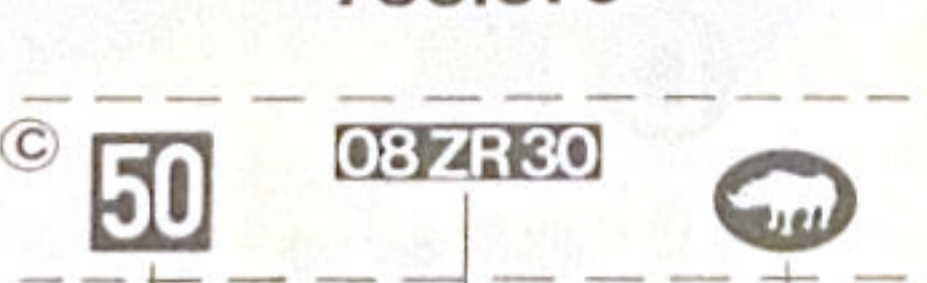
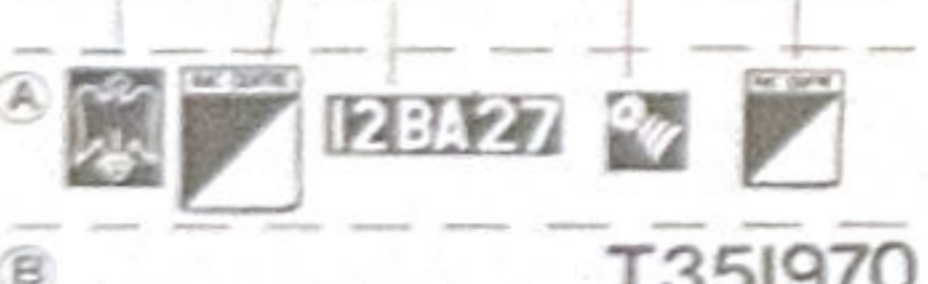
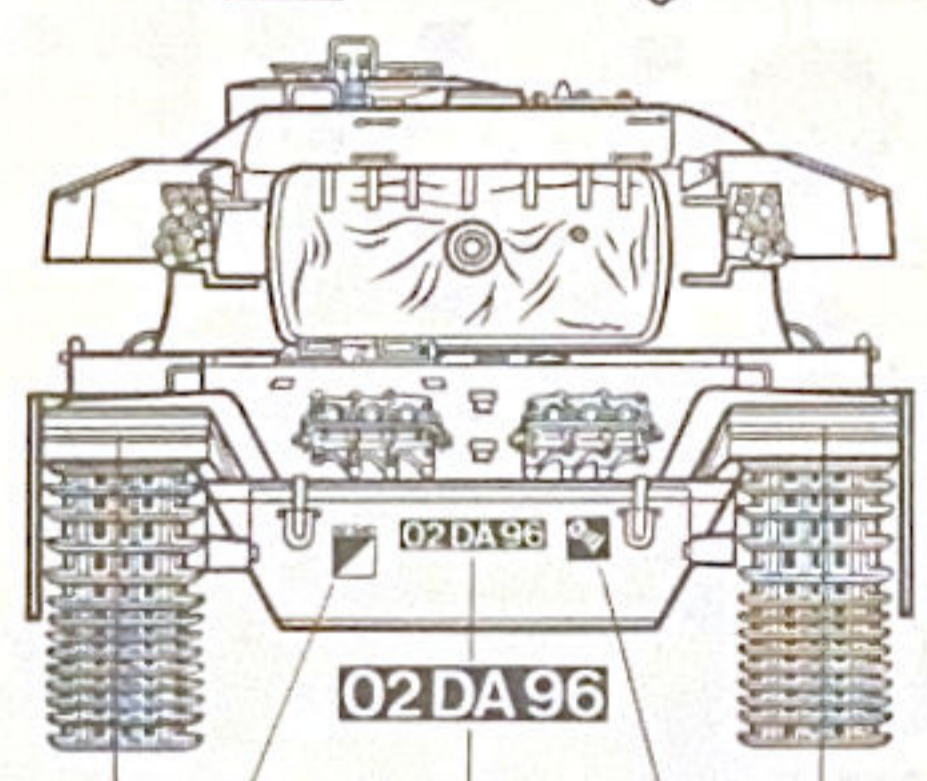
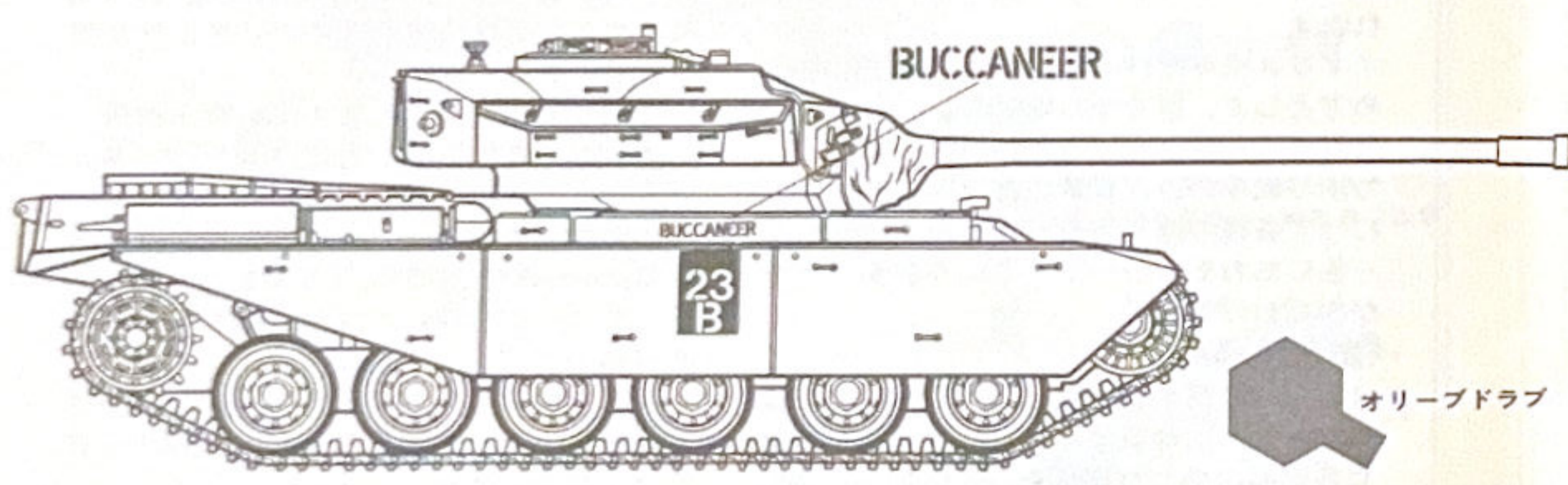
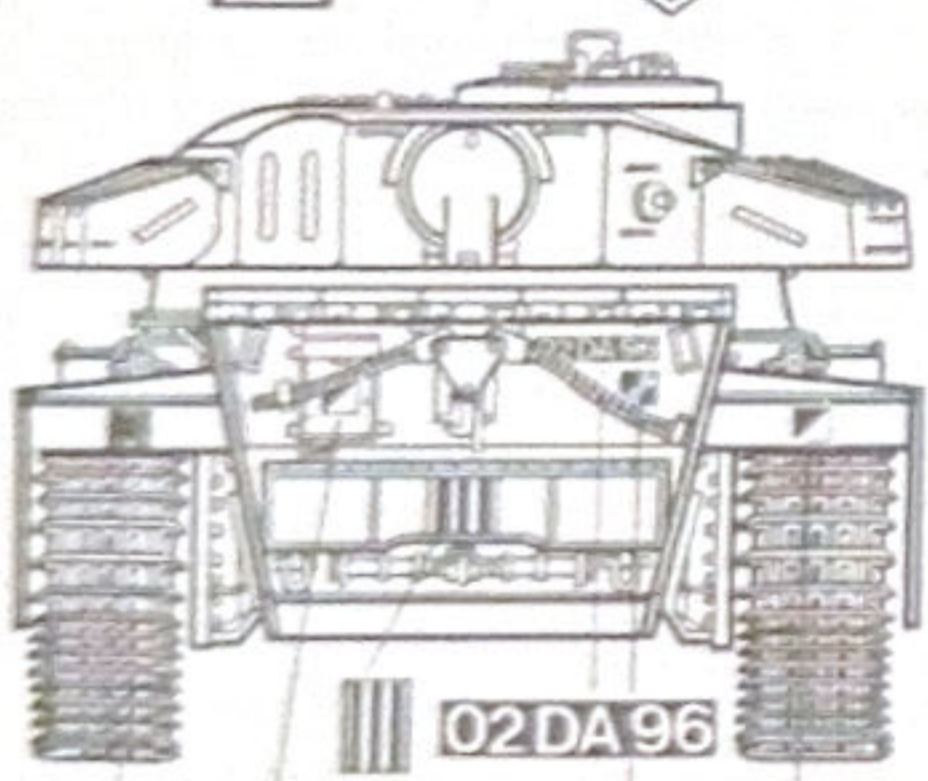
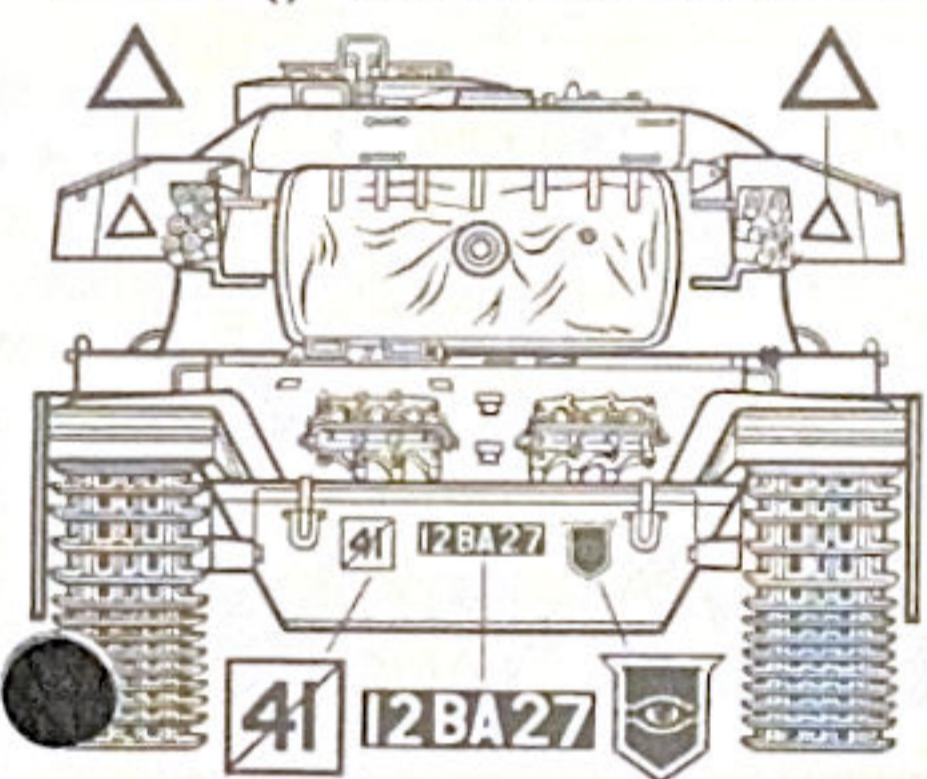
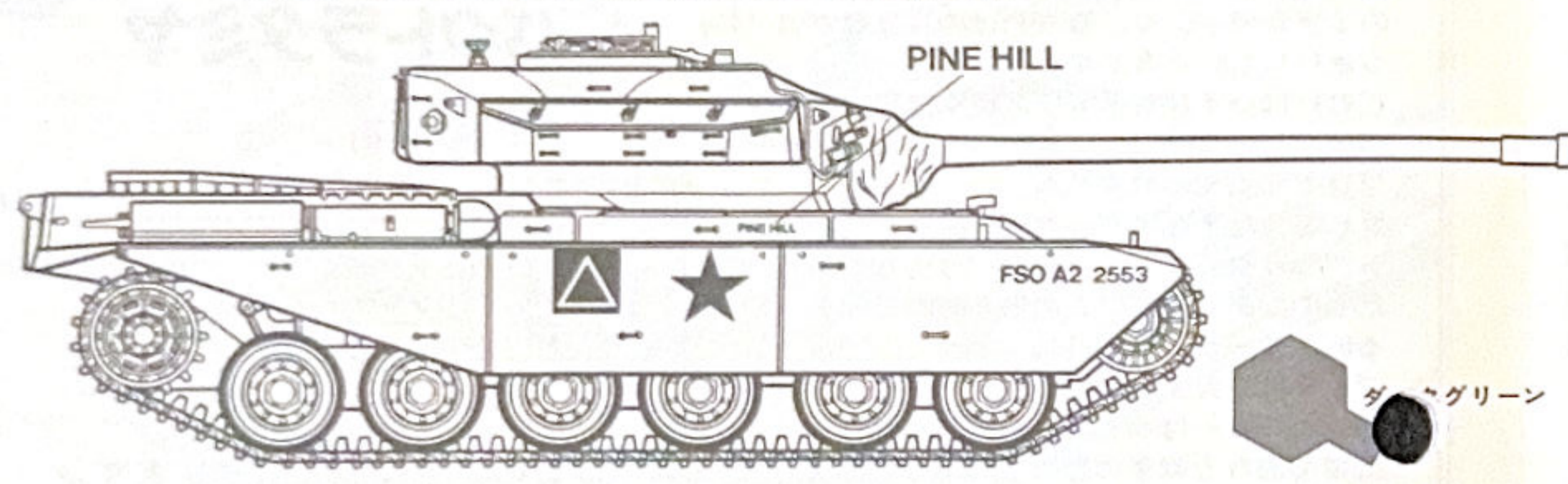
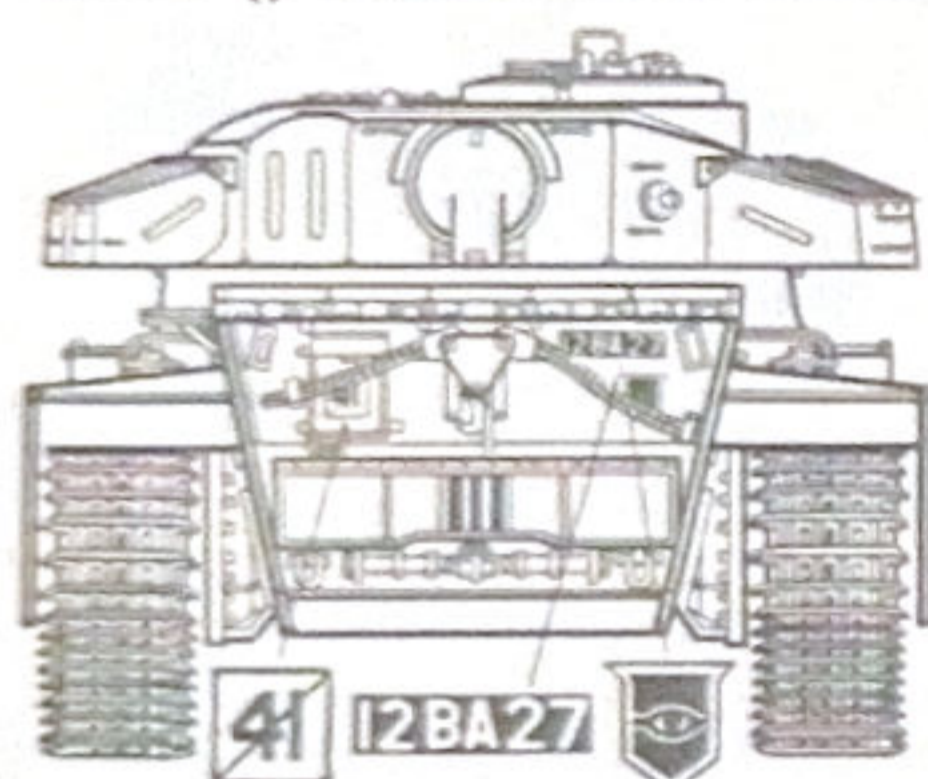
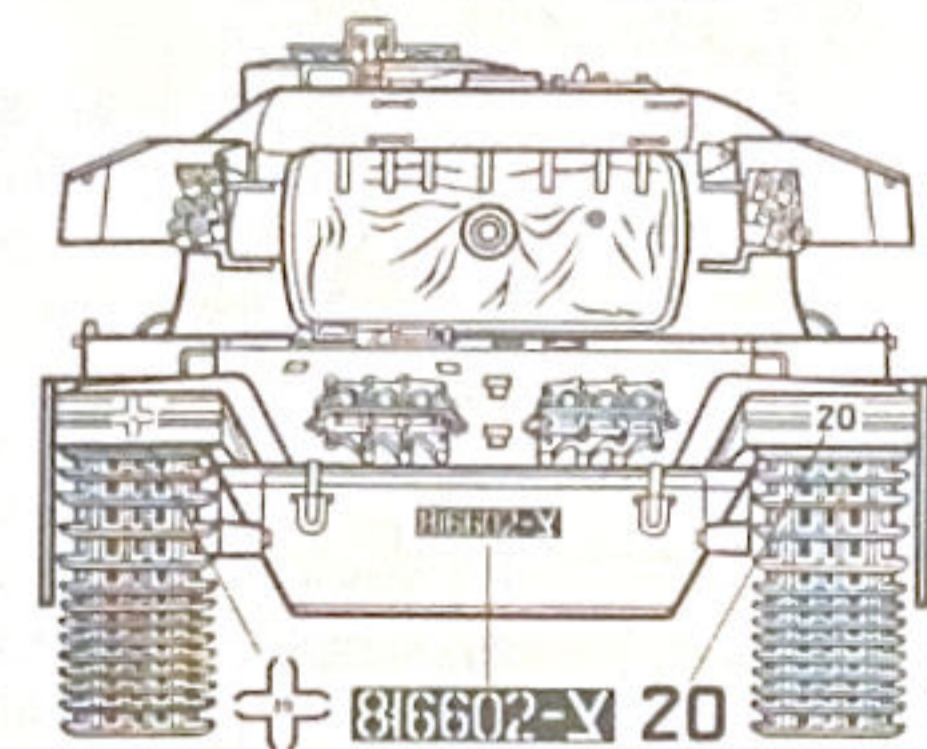
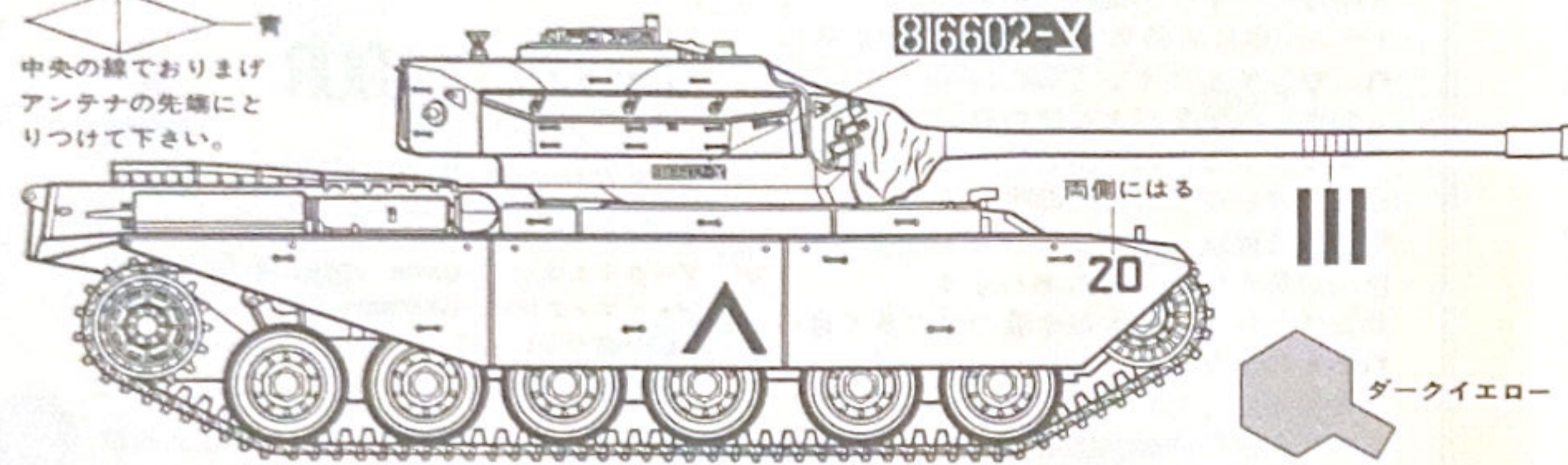
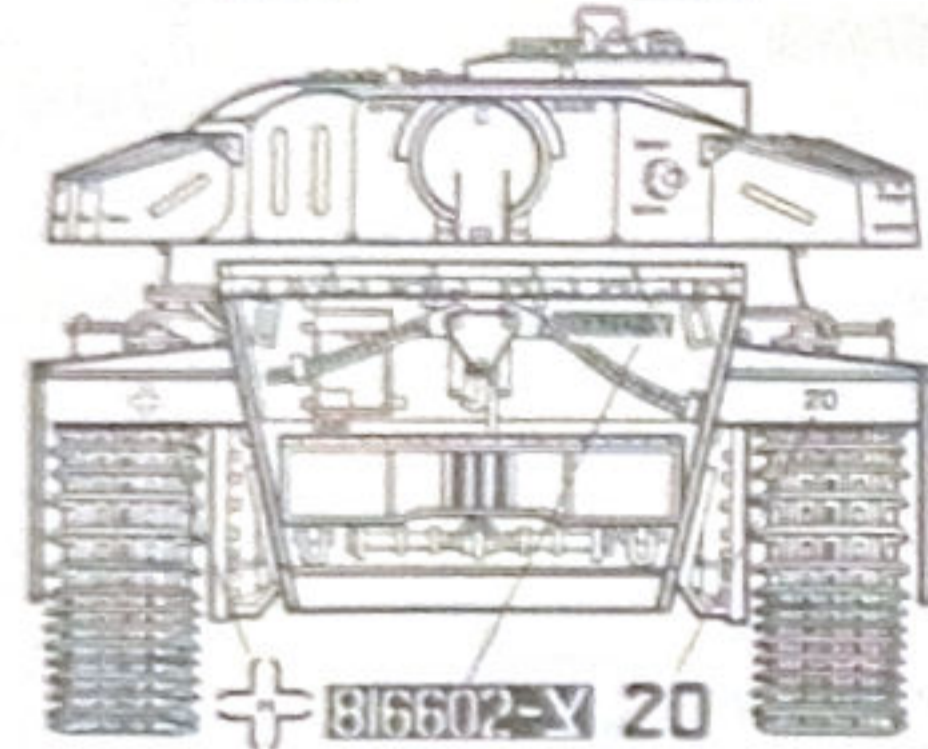
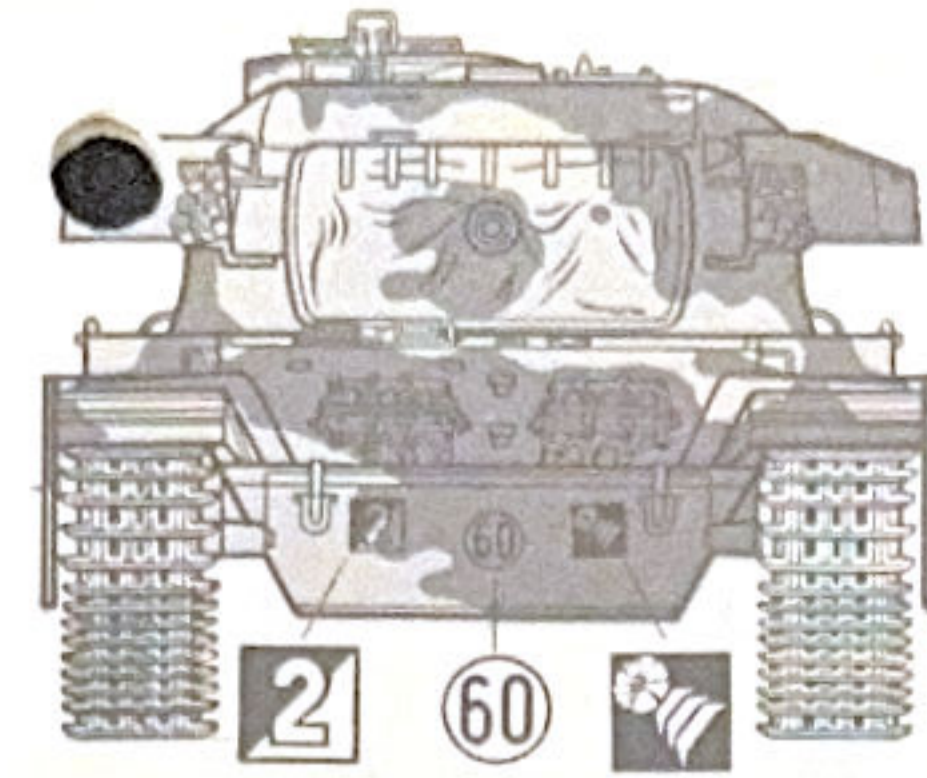
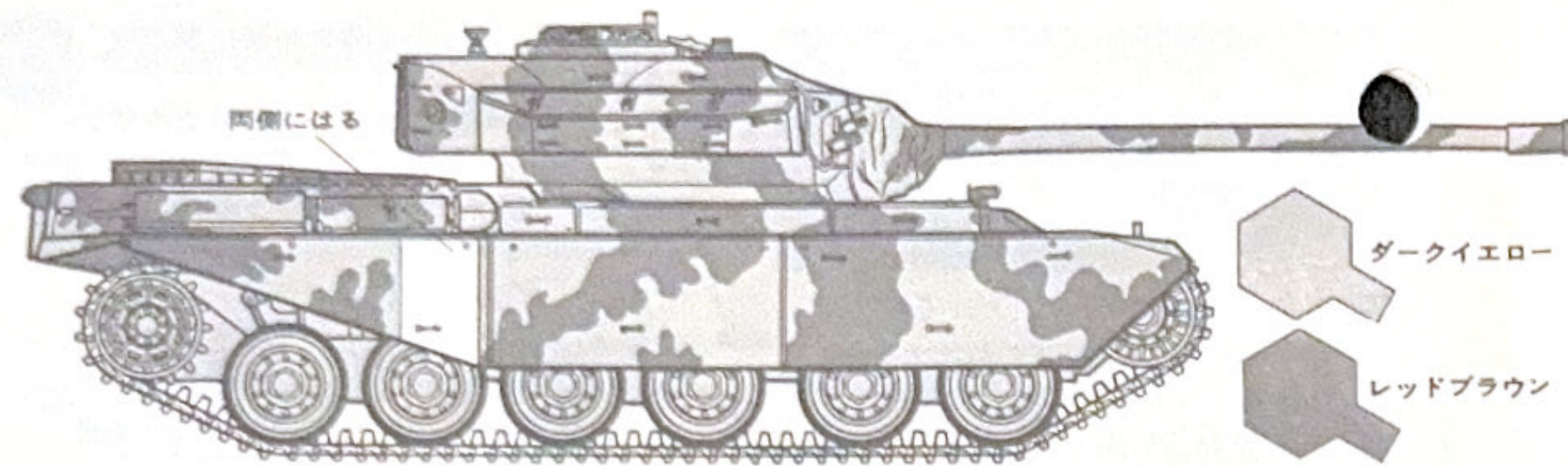
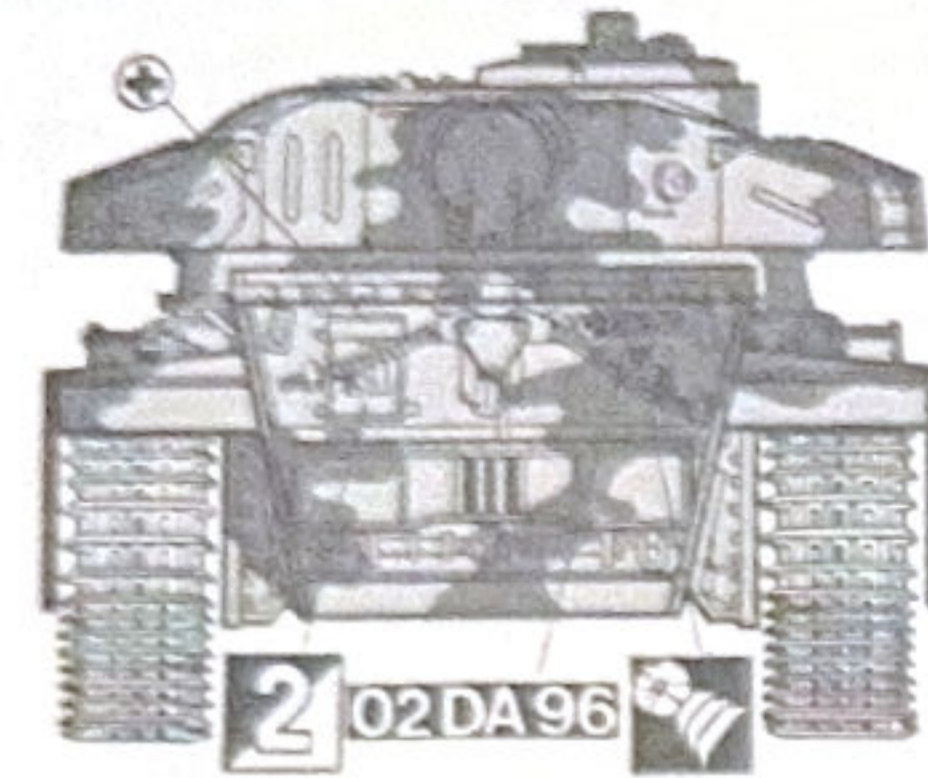


<迷彩塗装方法>

ダークイエローとレッドブラウンの2色迷彩の方法(タミヤカラー使用)

- (1) <戦車はこのようにして塗装します。>で示す方法で全体にダークイエロー色を塗装して、1時間ほど乾燥時間をおきます。
- (2) 完全に乾燥した車体にレッドブラウン色をP14、P15に示してある迷彩のパターン通りに筆塗りします。この場合、使用する塗料は必ずエナメル系の塗料を使って下さい。同じアルコール系を使用した場合、下に塗装したダークイエローとまざってしまいます。
- (3) 筆塗り塗装の後、タミヤカラーのダークイエロー、又はレッドブラウンを部分的にほんの少しづつ吹き付けしてみましょう。ほこりのついた感じがでて実感が増します。





中央の線でありまげ  
アンテナの先端にと  
りつけて下さい。

アンテナの塗装は  
図のようにフラット  
ブラックとフラット  
イエロー色のまじり  
にします。

ダークイエロー  
レッドブラウン

ダークイエロー

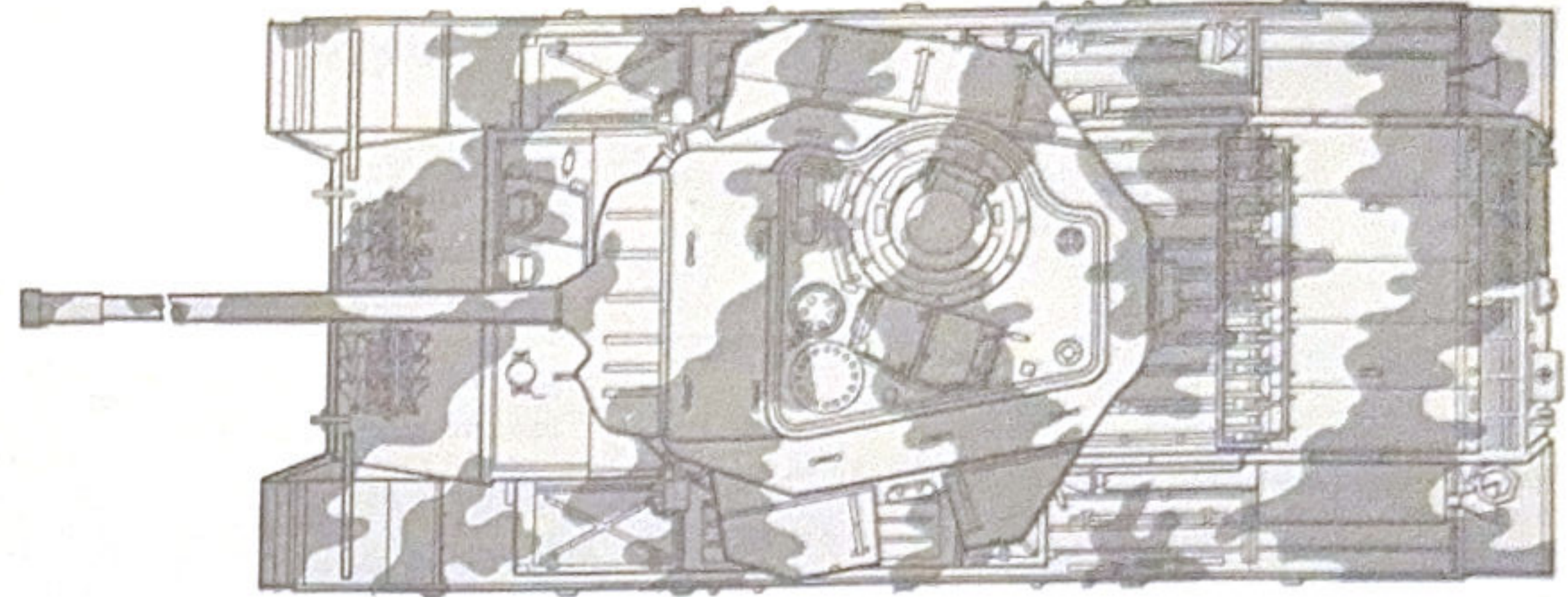
ダークグリーン

オリーブドラブ

ダークグリーン

ダークイエロー

ダークグリーン



## APPLYING DECALS

### ＜マークの説明＞

**チャイニーズアイ**、これは第4英国戦車連隊の識別サインです。このチャイニーズアイは1917年、マークV戦車を使ったD中隊が最初に使った古くからあるもので、現在の第4連隊では、この目に合わせて No have eyes, how can see? というモットーがあります。

**ベルリン駐在旅団**の識別サインです。

**PINE HILL** 戦車に付けられたニックネームです。このほかにMAPLEHILL, LONDON STA TESMAN, BADER, COLOMBOなどがあり、これらは朝鮮戦争で活躍した第8英国アイルランド戦車隊のもです。

**DIDO** これも戦車のニックネームで第4英国戦車連隊で古くから使われています。

**★** 朝鮮戦争における国連軍を表す星のマークです。

**60** 戦車の重量を表し、橋を通過する時の限界重量を識別します。

**第6師団**のマークです。この師団は第2次大戦の時は北アフリカで活躍しました。

**▲** イスラエルのセンチリオンのアーマースカートの前方に描かれているこのマークはその車輛の行動方向が、マークの方向、前、上、下によって解るようになっています。

**△ ○** これらはスコートロンサインで△がAスコートロン、○がCスコートロン

**2** 英国陸軍独特のフォーメーションサインです。

### ＜スライドマークのはり方＞

- ①はりたい部分をそれぞれ切取っておきます。
  - ②水にひたした紙が弓状にまがった所で水からひきあげタオル等の布の上におきます。
  - ③1〜2分してから紙のはしを手でもちマークをスライドさせてモデルに移して下さい。
  - ④指に少し水をつけてマークをぬらしながら正しい位置に移します。
  - ⑤タオル等のやわらかい布でマークの内側の気泡をおし出しながら、おしつけるようにして余分な水分をとります。マークをはる場所が曲面や凹凸している時は、むしろタオルでマークをおさして下さい。形になじみます。
- マークの回りの余分な透明の部分は切りとってからはります。正しい位置とシャープな仕上がりとなります。





1/35 SCALE  
MILITARY MINIATURES  
SERIES



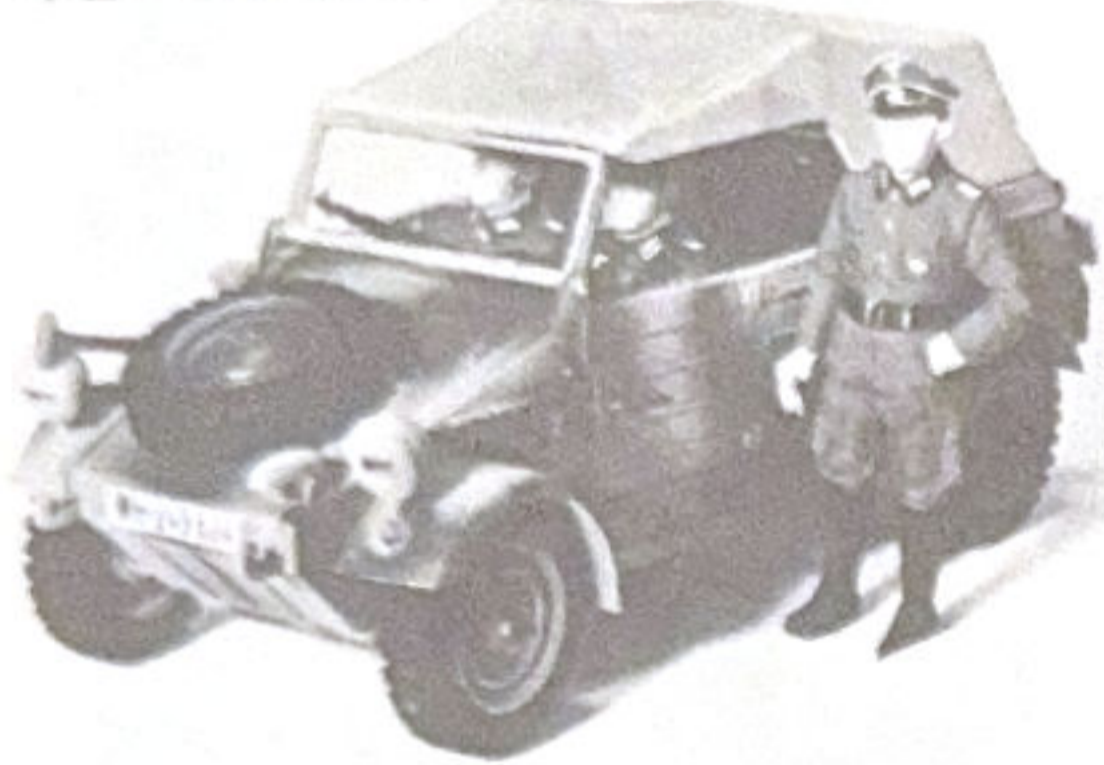
1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ

- No.2 ドイツ歩兵セット.....(4体)
- No.3 シュビムワーゲン.....(3体)
- No.4 アメリカ戦車兵セット.....(4体)
- No.5 イギリス6ポンド対戦車砲.....(3体)
- No.6 キューベルワーゲン.....(3体)
- No.7 イギリス歩兵セット.....(3体)

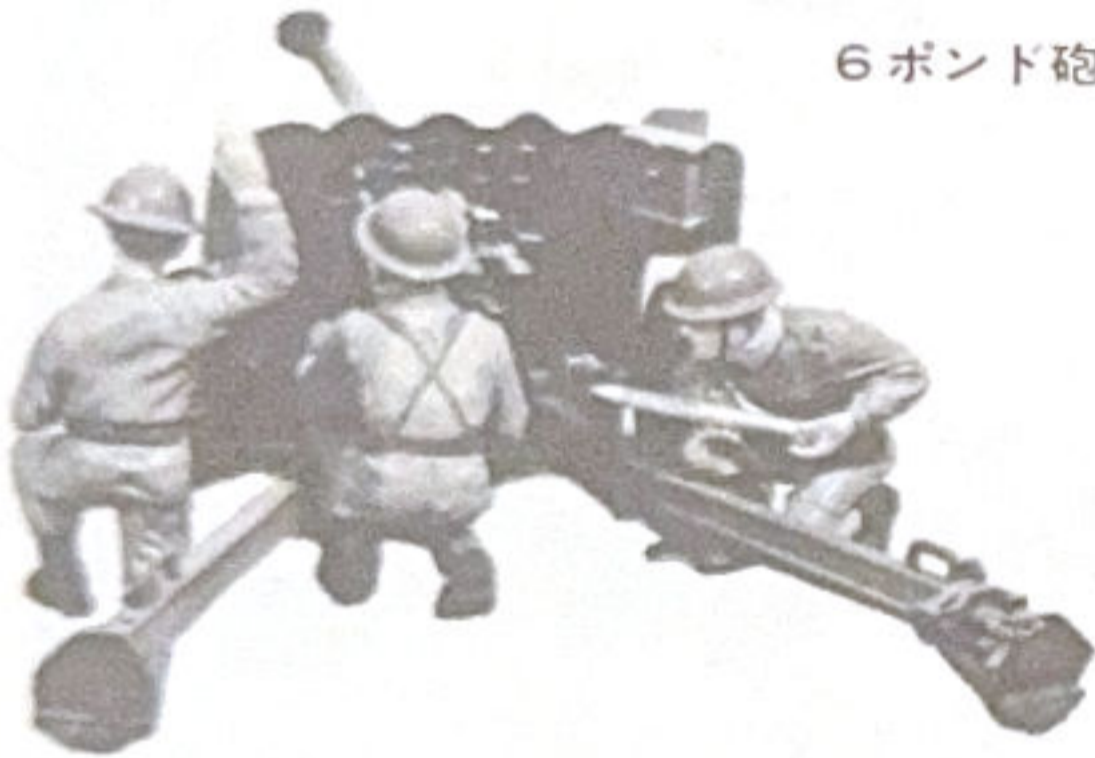
シュビムワーゲン



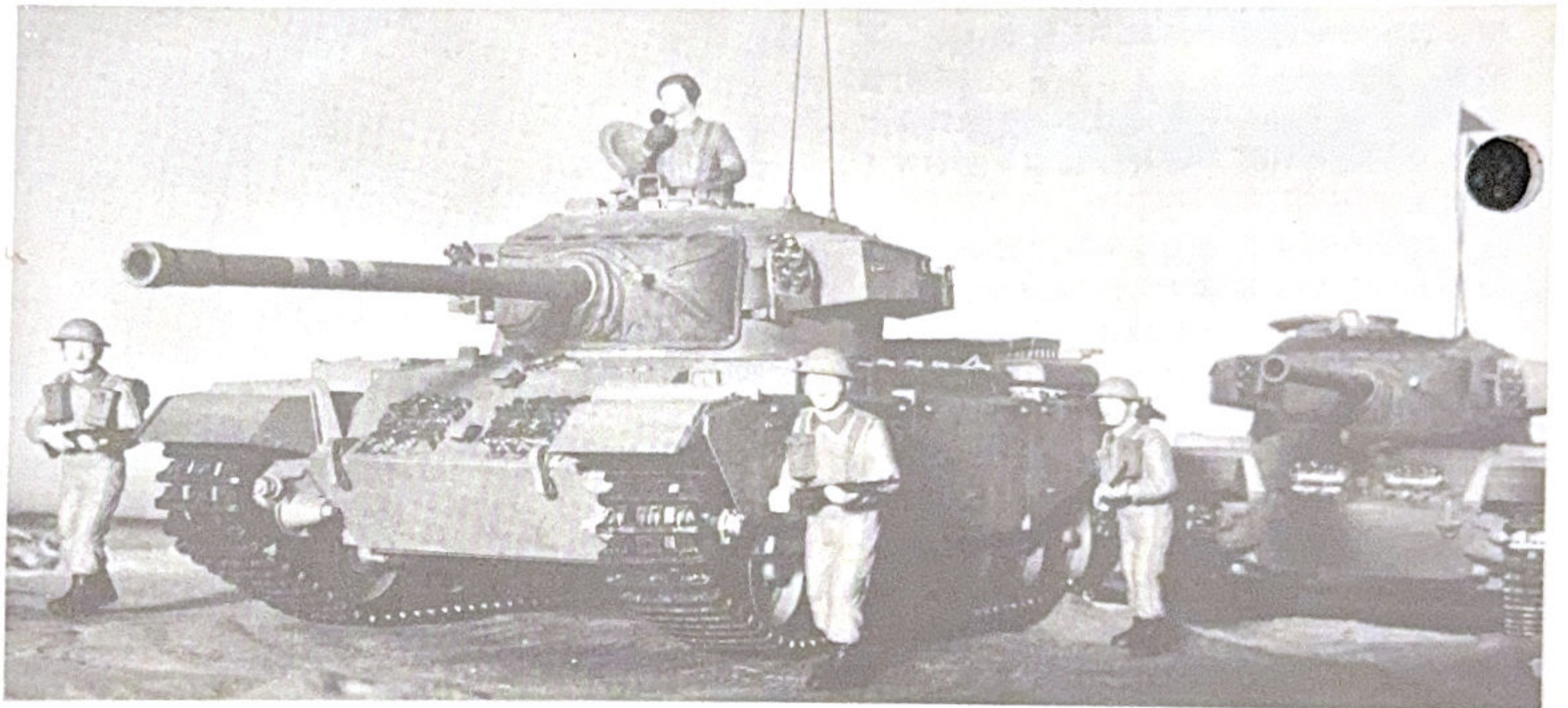
キューベルワーゲン



6ポンド砲



センチュリオン・イギリス歩兵セット、6ポンド砲による情景写真



タミヤの総合カタログ

タミヤの全製品を詳しく解説した総合カタログは年に1回発行。ご希望の方は模型店であたね下さい。  
★部品請求にはこのカードが必要です。  
部品請求をなさる方はあなたの氏名、住所、郵便番号(できれば電話番号)を1字づつはつきりとお書き下さい。

CENTURION MkIII

1/35 シングル センチュリオンMkIII

部品を紛失したり、破損なされた方は、このカードの必要部品を丸でかこみ代金を現金書留又は定額替為で、田宮模型企画部検査課迄お申し込み下さい。

- ギヤボックス(モーター無し)..... 280円
- A部品..... 330円
- B部品..... 320円
- C部品..... 320円
- D部品..... 160円
- キャタピラ..... 180円

8102

ISO

上記の価格は予告なく変更となる場合があります、ありますので御諒承下さい。

★★ 田宮模型  
静岡市小鹿628 丁422

